

2023年度

教育委員会の点検・評価報告書  
(2022年度事業分)

2023年 6 月

豊岡市教育委員会

## 目 次

I	教育委員会活動等の点検・評価について	1
II	教育委員会会議及び教育委員の活動	3
	1 教育委員会の概要	
	2 教育委員会会議の開催状況	
	3 教育委員会会議以外の活動状況	
	4 教育委員活動のまとめ	
III	教育委員会施策の点検・評価	15
	・ 第4次とよおか教育プラン2022年度実践計画の検証について	
	・ 第4次とよおか教育プラン2022年度実践計画 施策・取組一覧	
	・ 第4次とよおか教育プラン2022年度実践計画 検証総括シート	
	【基本方針 1 「生きる力」を育む教育の推進】	
	基本的方向 1 「あたまの力」の育成	
	基本的方向 2 「こころの力」の育成	
	基本的方向 3 「からだの力」の育成	
	基本的方向 4 「あたま・こころ・からだの3つの力を支える基礎力」の育成	
	基本的方向 5 特別支援教育の充実	
	【基本方針 2 子どもたちの学びを支える仕組みの確立】	
	基本的方向 1 教職員の資質・能力の向上	
	基本的方向 2 学校園の組織力の強化	
	基本的方向 3 安全・安心な教育環境の整備・充実	
	基本的方向 4 家庭と地域による学校と連携した教育の推進	
IV	外部有識者の総評	55

# I 教育委員会活動等の点検・評価について

## 1 趣 旨

豊岡市教育委員会では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、2008年度から教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行っています。

本年度も法の趣旨に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすため、2022年度の教育施策の実施状況について点検及び評価を行いました。

この点検・評価の結果を踏まえ、今後の教育行政施策の改善や見直しに努めるとともに、教育環境の整備・充実に努めてまいりますので、市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### ■参考■

#### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 実施方法

豊岡市教育委員会活動の実績報告と「第4次とよおか教育プラン（2020年2月策定）」を基に策定した「2022年度実践計画（2022年3月策定）」に位置付けた施策・取組について点検及び評価を行い、その結果について報告書を作成し、議会に提出するとともに、市ホームページへの掲載等により公表します。

## 3 教育委員会活動等の点検・評価の方法

### (1) 教育委員会会議及び教育委員の活動

毎月定例的に開催される教育委員会会議の開催状況、審査議案、報告事項、さらに学校訪問をはじめとする教育関係施設や各種事業の視察、委員研修、大会への参加状況等を記載しています。

## (2) 教育委員会施策の点検・評価

点検・評価する事業は、第4次とよおか教育プラン2022年度実践計画に位置付けた全ての施策・取組を対象とします。

点検・評価の方法は、学校現場及び各担当課による自己検証のほか、検証委員会による外部検証を行うとともに、年度末において教育委員会による最終検証を行いました。

## (3) 外部有識者の総評

点検及び評価にあたり、点検評価の客観性を確保するとともに、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、外部評価を依頼し、教育委員会が実施した事業について、公正・的確な意見を述べていただくこととしました。

外部評価は、第4次とよおか教育プランの推進など、豊岡の教育行政に深く携わっていただいている兵庫教育大学大学院学校教育研究科准教授の安藤福光氏にお願いしました。

## Ⅱ 教育委員会会議及び 教育委員の活動

## 1 教育委員会の概要

教育委員会は、首長から独立した行政委員会として、全ての都道府県及び市町村に設置されており、教育行政における重要事項や方針を決定し、教育長が具体的な事務を執行しています。

豊岡市では、2017年5月17日に新制度による教育長の任命が行われました。豊岡市教育委員会は、教育長と4人の委員をもって組織され、地方における教育行政の中心的な担い手としてその役割を果たすことが求められています。

豊岡市教育委員会委員名簿 (2022年度)

職名	氏名	任期
教育長	嶋 公 治	2020年5月17日～2023年5月16日
委員 (教育長職務代理者)	佐 伯 和 亜	2020年5月17日～2024年5月16日 (教育長職務代理者 2019年5月17日～)
委 員	向 井 美 紀	2021年5月17日～2025年5月16日
	飯 田 正 巳	2022年5月17日～2026年5月16日
	成 田 壽 郎	2019年5月17日～2023年4月11日

## 2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会」を、緊急的な協議議題等があれば必要に応じて「教育委員会臨時会」を開催することとしており、教育行政の基本方針や重要施策等を決定しています。

2022年度は14回の会議を開催し、人事案件や規則、予算案など合計60件の議案について審議を行うとともに、41件の報告・協議を行い、教育行政の方針等を決定しました。

- ◆教育委員会定例会 12回
- ◆教育委員会臨時会 2回 合計14回

### 【議案審議内容】

- |                                   |     |
|-----------------------------------|-----|
| (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関する事   | 6件  |
| (2) 教育委員会規則の制定及び改廃に関する事           | 24件 |
| (3) 職員(教職員を含む)の人事に関する事            | 2件  |
| (4) 法令又は条例に定めのある附属機関の委員の委嘱に関する事   | 2件  |
| (5) 教育予算に関する事                     | 4件  |
| (6) 教育財産の取得・用途廃止、所管換等に関する事        | 9件  |
| (7) その他(附属機関以外の委員の委嘱、物品購入契約の締結など) | 13件 |

● 教育委員会会議開催状況

会議区分	開催日	開催場所
第1回定例会	2022年4月21日(木)	本庁舎 第2委員会室
第2回定例会	2022年5月17日(火)	本庁舎 第2委員会室
第3回定例会	2022年6月21日(火)	本庁舎 庁議室
第4回定例会	2022年7月21日(木)	本庁舎 第3委員会室
第5回定例会	2022年8月22日(月)	本庁舎 第3委員会室
第6回定例会	2022年9月26日(月)	竹野庁舎 大会議室
第7回定例会	2022年10月24日(月)	本庁舎 第3委員会室
第8回定例会	2022年11月24日(木)	本庁舎 大会議室
第9回定例会	2022年12月21日(水)	但東庁舎 大会議室
第10回定例会	2023年1月26日(木)	本庁舎 庁議室
第11回定例会	2023年2月13日(月)	本庁舎 庁議室
臨時会	2023年2月22日(水)	本庁舎 教育長室
臨時会	2023年3月7日(火)	本庁舎 教育長室
第12回定例会	2023年3月24日(金)	本庁舎 大会議室

● 2022年度 教育委員会会議審議案件等一覧

第1回定例会 2022年4月21日(木)	
審議案件	
議案第1号	豊岡市奨学生選考委員会委員の委嘱について…可決
議案第2号	豊岡市学校給食センター運営委員会委員の任命について…可決
報告案件	
報告第1号	豊岡市就学援助費受給世帯等特別給付金支給事業実施要綱を廃止する要綱の制定について
報告第2号	豊岡市教育委員会事務局が所管する補助金等交付要綱の一部を改正する要綱制定について(豊岡市小・中学校児童・生徒各種大会派遣費補助金)
報告第3号	豊岡市教育委員会事務局が所管する補助金等交付要綱の一部を改正する要綱制定について(豊岡市私立保育所等運営支援給付金)
報告第4号	豊岡市教育委員会事務局が所管する補助金等交付要綱の一部を改正する要綱制定について(豊岡市認定こども園等施設整備費補助金)

報告第5号	豊岡市立市民交流広場の設置及び管理に関する条例施行規則制定について
報告第6号	豊岡市立市民交流広場の設置及び管理に関する条例の施行期日を定める規則制定について
報告第7号	豊岡市立こども広場の設置及び管理に関する条例施行規則制定について
報告第8号	豊岡市立こども広場の設置及び管理に関する条例の施行期日を定める規則制定について
報告第9号	豊岡市立子育てセンターの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則制定について
報告第10号	豊岡市立子育てセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する規則の施行期日を定める規則制定について
報告第11号	寄附物件の受納について

第2回定例会 2022年5月17日(火)	
審議案件	
議案第3号	物件購入契約の締結に関する意見について(小学校学習用端末)…承認
議案第4号	豊岡市学校運営協議会委員の任命について…可決
議案第5号	豊岡市学校評議員の委嘱について…可決
議案第6号	豊岡市教育支援委員会委員の委嘱について…可決
報告案件	
報告第12号	専決処分したものの報告について
報告第13号	寄附物件の受納について
協議案件	
教育委員会の点検・評価報告書について	
教育委員が務める各種協議会等の委員について	
2022年度の教育委員会活動計画について	

第3回定例会 2022年6月21日(火)	
審議案件	
議案第7号	豊岡市いじめ防止対策委員会委員の任命について…可決
議案第8号	豊岡市奨学生の選考について…決定
議案第9号	2022年度教育委員会の点検・評価報告書の決定について…可決
議案第10号	多様な学びの場の構築に向けた包括連携協定の締結について…承認
報告案件	
報告第14号	豊岡市学校給食センター運営委員会委員の任命について
報告第15号	教育長が臨時に代理した令和4年度第2号補正教育関係予算案に関する意見について承認を求めることについて
報告第16号	教育長が臨時に代理した令和4年度第3号補正教育関係予算案に関する意見について承認を求めることについて
報告第17号	教育長が臨時に代理した令和4年度第4号補正教育関係予算案に関する意見



	について承認を求めることについて
報告第 18 号	豊岡市就学援助費受給世帯等特別給付金支給事業実施要綱制定について
報告第 19 号	寄附物件の受納について
報告第 20 号	令和 4 年 6 月市議会答弁概要について

第 4 回定例会 2022 年 7 月 21 日 (木)	
審議案件	
議案第 11 号	教育財産の用途廃止について…可決
報告案件	
報告第 21 号	豊岡市要保護児童対策協議会設置要綱の一部を改正する要綱制定について
報告第 22 号	豊岡市教育委員会事務局が所管する補助金等交付要綱の一部を改正する要綱制定について
報告第 23 号	寄附物件の受納について

第 5 回定例会 2022 年 8 月 22 日 (月)	
審議案件	
議案第 12 号	豊岡市こども支援センター設置条例の一部を改正する条例制定について…承認
議案第 13 号	令和 4 年度 9 月補正教育関係予算案に関する意見について…承認
議案第 14 号	豊岡市ファミリーサポートセンター事業実施要綱の一部を改正する要綱制定について…可決
報告案件	
報告第 24 号	寄附物件の受納について

第 6 回定例会 2022 年 9 月 26 日 (月)	
報告案件	
報告第 25 号	寄附物件の受納について
報告第 26 号	令和 4 年 9 月市議会答弁概要について

第 7 回定例会 2022 年 10 月 24 日 (月)	
報告案件	
報告第 27 号	教育長が臨時に代理した令和 4 年度第 7 号補正教育関係予算案に関する意見について承認を求めることについて
報告第 28 号	寄附物件の受納について

第 8 回定例会 2022 年 11 月 24 日 (木)	
審議案件	
議案第 15 号	豊岡市事務分掌条例等の一部を改正する条例制定に係る意見聴取について…承認

議案第 16 号	豊岡市立小学校及び中学校の設置に関する条例の一部を改正する条例制定について…承認
議案第 17 号	豊岡市立幼稚園の設置に関する条例の一部を改正する条例制定について…承認
議案第 18 号	豊岡市立放課後児童クラブの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について…承認
議案第 19 号	豊岡市立認定こども園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について…承認
議案第 20 号	豊岡市子ども・子育て会議条例の一部を改正する条例制定について…承認
議案第 21 号	令和 4 年度 12 月補正教育関係予算案に関する意見について…承認
議案第 22 号	豊岡市事務分掌条例等の一部を改正する条例制定に関する意見について…承認
報告案件	
報告第 29 号	豊岡市教育委員会事務局が所管する補助金等交付要綱の一部を改正する要綱制定について
報告第 30 号	豊岡市情報通信技術を活用した行政の推進等に関する条例施行規則第 3 条の規定による手続等の告示について
報告第 31 号	寄附物件の受納について

第 9 回定例会 2022 年 12 月 21 日 (水)	
審議案件	
議案第 23 号	豊岡市奨学金規則の一部を改正する規則制定について…可決
議案第 24 号	豊岡市交通遺児奨学金規則の一部を改正する規則制定について…可決
報告案件	
報告第 32 号	教育長が臨時に代理した令和 4 年度 12 月補正 (第 9 号) 教育関係予算案に関する意見について承認を求めることについて
報告第 33 号	寄附物件の受納について
報告第 34 号	令和 4 年 12 月市議会答弁概要について

第 10 回定例会 2023 年 1 月 26 日 (木)	
審議案件	
議案第 25 号	豊岡市教育委員会職名規則の一部を改正する規則制定について…可決
議案第 26 号	豊岡市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則及び豊岡市立学校の通学区域等に関する規則の一部を改正する規則制定について…可決
議案第 27 号	豊岡市教育委員会事務局等決裁規程の一部を改正する訓令制定について…可決
議案第 28 号	豊岡市立学校給食センターに勤務する職員の勤務時間等に関する規程の一部を改正する訓令制定について…可決
議案第 29 号	豊岡市竹野地域小中一貫校開設準備委員会設置要綱制定について…可決

報告案件	
報告第 35 号	豊岡市立認定こども園の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則制定について
報告第 36 号	豊岡市教育委員会事務局が所管する補助金等交付要綱の一部を改正する要綱制定について（物価高騰対策支援給付金）
報告第 37 号	豊岡市教育委員会事務局が所管する補助金等交付要綱の一部を改正する要綱制定について（一時預かり利用者負担軽減事業補助金）
報告第 38 号	寄附物件の受納について

第 11 回定例会 2023 年 2 月 13 日（月）	
審議案件	
議案第 30 号	令和 4 年度 3 月補正（第 11 号）教育関係予算案に関する意見について…承認
議案第 31 号	令和 5 年度当初教育関係予算案に関する意見について…承認
議案第 32 号	2023 年度教育行政の方針と施策の展開について…承認
議案第 33 号	豊岡市教育委員会事務局等組織規則の一部を改正する規則制定について…可決
議案第 34 号	豊岡市教育支援委員会規則の一部を改正する規則制定について…可決
議案第 35 号	豊岡市立生涯学習サロンの設置及び管理に関する条例施行規則制定について…可決
議案第 36 号	豊岡市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則制定について…可決
議案第 37 号	豊岡市教育委員会の権限に関する事務の補助執行に関する規程の一部を改正する訓令制定について…可決…可決
議案第 38 号	豊岡市長の権限に属する事務の補助執行に関する規程の一部を改正する訓令制定について…可決
議案第 39 号	豊岡市教育委員会公印規程の一部を改正する訓令制定について…可決

臨時会 2023 年 2 月 22 日（水）	
審議案件	
議案第 40 号	豊岡市立学校教職員（管理職）の人事（内申）について…承認

臨時会 2023 年 3 月 7 日（火）	
審議案件	
議案第 41 号	豊岡市立学校教職員（一般）の人事（内申）について…承認

第 12 回定例会 2023 年 3 月 24 日（金）	
審議案件	
議案第 42 号	豊岡市教育委員会の所管に係る豊岡市個人情報保護条例施行規則を廃止する規則制定について…可決
議案第 43 号	豊岡市立学校文書取扱規程の一部を改正する訓令制定について…可決
議案第 44 号	豊岡市教育委員会公印規程の一部を改正する訓令の一部を改正する訓令制定について…可決

議案第 45 号	豊岡市視聴覚ライブラリーの利用に関する要綱制定について…可決
議案第 46 号	豊岡市立図書館利用者カード取扱要綱制定について…可決
議案第 47 号	豊岡市立図書館資料の弁償に関する取扱要綱制定について…可決
議案第 48 号	豊岡市ファミリーサポートセンター事業実施要綱を廃止する要綱制定について…可決
議案第 49 号	豊岡市養育支援訪問事業実施要綱を廃止する要綱制定について…可決
議案第 50 号	豊岡市竹野地域小中一貫校開設準備委員会設置要綱の一部を改正する要綱制定について…可決
議案第 51 号	第 4 次とよおか教育プラン 2023 年度実践計画の策定について…可決
議案第 52 号	教育財産の用途廃止について（静修小学校）…可決
議案第 53 号	教育財産の用途廃止について（高橋小学校）…可決
議案第 54 号	教育財産の用途廃止について（高橋認定こども園）…可決
議案第 55 号	教育財産の用途廃止について（豊岡ひかり幼稚園）…可決
議案第 56 号	教育財産の用途廃止について（中筋幼稚園）…可決
議案第 57 号	教育財産の用途廃止について（三方幼稚園）…可決
議案第 58 号	教育財産の用途廃止について（府中幼稚園）…可決
議案第 59 号	教育財産の用途廃止について（森本へき地保育園）…可決
議案第 60 号	八代小学校への小規模特認校導入について…可決
報告案件	
報告第 39 号	令和 5 年 3 月市議会答弁概要について
報告第 40 号	寄附物件の受納について
報告第 41 号	独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金の保護者負担額に関する要綱制定について

### 3 教育委員会会議以外の活動状況

#### (1) 総合教育会議

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、2015 年度から地方公共団体の長と教育委員会で構成する総合教育会議の設置が義務付けられました。

これを受けて、次のとおり会議を開催しました。

#### ア 第 1 回総合教育会議

- ・日 時 2022 年 5 月 23 日（月）午後 3 時 30 分から午後 5 時 05 分
- ・場 所 本庁舎 庁議室
- ・内 容
  - ・特別支援教育について
  - ・教職員の研修について
  - ・GIGA スクール構想の推進について

#### イ 第 2 回総合教育会議

- ・日 時 2022 年 11 月 11 日（金）午後 2 時 30 分から午後 4 時 05 分
- ・場 所 本庁舎 大会議室

- ・内 容
- ・豊岡市プログラミング教育について
- ・学校におけるジェンダーギャップへの取組について
- ・WACCU TOYOOKA の状況について

(2) 教育懇談会

教育委員会では、市が進めている教育施策の内容を市民に理解していただくとともに、教育委員と市民との対話を通して市民の声を教育行政に反映することを目的として教育懇談会を開催しています。

2022年度は、「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画」で、最優先に検討することとしている、複式学級が生じている八代小学校区と寺坂小学校区を対象に説明会・意見交換会を開催しました。

八代小学校については、日高小学校と静修小学校との3校での学校再編を行う計画としている一方で、地区・保護者からの要望を受け、小規模特認校制度の導入についてあわせて検討を行いました。計画内容や小規模特認校について、八代小学校区の保護者に説明を行ったうえで、「小規模特認校に期待すること。気になること」と題してワークショップを行い、意見交換を行いました。

また、寺坂小学校については、福住小学校と統合する計画としており、寺坂地区の保護者に説明し、意見交換を行いました。

○〔八代小学校区〕豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画にかかる意見交換会（保護者）

- ・日 時 2022年5月15日（日）
- ・場 所 八代小学校体育館

○〔八代小学校区〕第2回 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画にかかる意見交換会（保護者）

- ・日 時 2022年6月19日（日）
- ・場 所 八代小学校体育館

○〔寺坂小学校区〕豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画に係る保護者説明会

- ・日 時 2022年7月31日（日）
- ・場 所 寺坂地区コミュニティセンター

(3) 教育委員会会議以外の活動状況一覧

月	学校訪問、学校園行事	視察、研修会、各種委員会	その他行事等
4	教職員辞令交付式 校園長会挨拶 小学校入学式 中学校入学式 幼稚園・認定こども園入園式 竹野小学校統合式	教育委員協議会（とよおか教育プラン） 教育委員学習会（ジェンダーギャップ）	
5		教育委員学習会（総合教育会議） 第1回総合教育会議 豊岡市民生委員推薦会 兵庫県市町村教育委員会連合会総会・研修会 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置にかかる意見交換会（八代小学校区）	
6	トライやるウィーク・自然学校視察 演劇ワークショップにかかる学校訪問 学校園訪問 （合橋こ、ひかり幼）	豊岡市奨学生選考委員会 豊岡市小中一貫教育推進協議会 豊岡市要保護児童対策協議会代表者会議 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置にかかる第2回意見交換会（八代小学校区）	
7	学校園訪問 （西保、港認こ、合橋小、静修小、八条小）	但馬教育委員連合会理事会・総会・研修会（朝来市） 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置保護者説明会（寺坂小学校区）	
8		豊岡市進学対策協議会 但馬教育塔台祀祭（但馬文教府） 豊岡市教育フォーラム 第2回豊岡市民生委員推薦会	
9	学校園訪問 （但東中、豊岡北中、港中、五荘奈佐幼）	教育委員協議会（とよおか教育プラン） 第3回豊岡市民生委員推薦会	
10	学校園訪問 （八代小、神美幼・小、府中小、寺坂小、高橋小）		
11	学校園訪問 （新田幼・小、中筋幼・小、小野小、竹野中）	教育委員学習会（総合教育会議） 第2回総合教育会議 近畿市町村教育委員会研修大会（オンライン）	出石町青少年健全育成推進大会（出石多目的ホール）
12			東井義雄創生塾研究会
1		行政視察事前学習会	
2		豊岡市小中一貫教育推進協議会 行政視察（加東市立東条学園小中学校） 第4回豊岡市民生委員推薦会	
3	中学校卒業式 幼稚園・認定こども園卒園式 小学校卒業式 高橋小学校閉校式 静修小学校閉校式 英語遊び巡回指導にかかる園訪問		

#### 4 教育委員活動のまとめ

2022年度もコロナ禍が続き、教育活動の制限等もある中、教育委員会では、本市の教育理念『ふるさと豊岡を愛し 夢の実現に向け挑戦する子どもの育成～非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）を子どもたちに～』を示した第4次とよおか教育プランに基づき、“常に子どもの事実に学び、子どもに寄り添う教育”を基本姿勢とした教育施策を展開し、毎年度定める実践計画に掲げる施策の取組を推進しました。

教育行政の効果的な推進に当たっては、市民や保護者の教育に対する理解と協力が必要不可欠であると考えています。そのため、市民に身近で開かれた教育委員会となるよう、竹野・但東地域で移動教育委員会会議を実施したほか、教育委員会会議の開催日や審議結果などを公表するとともに、市の教育情報を掲載した「豊岡きょういく」を年3回発行し、教育情報の発信に努めました。

また、教育委員会会議での方針決定に保護者や教育現場の意見を反映させるため、学校園訪問、教育研修会等へ参加し、学校、家庭、地域の現状把握を行い、連携した教育活動の充実を図りました。

教育委員会では、「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画」（2021年12月策定）に沿って、子どもたちのよりよい学びの環境を確保するため、地域や保護者の皆さんと協議を進めています。

2022年度は「合橋小学校と高橋小学校」及び「日高小学校と静修小学校」の統合について、それぞれの統合準備委員会で統合に必要な調整項目をまとめていただき、2023年4月7日に日高小学校と合橋小学校で統合式を開催しました。

また、竹野地域での施設一体型小中一貫校の整備については、2023年2月24日に開設準備委員会を立ち上げ、PTAや地域の皆さんと本格的に協議を進めます。同月には、施設一体型の義務教育学校の加東市立東条学園小中学校へ先進地視察に行き、研究の機会としました。

八代小学校における小規模特認校制度の導入については、2023年3月13日に八代小学校の未来を考える会会長から提出された実施計画の内容は評価するべきものであるとし、八代地区の保護者と住民の総意と認められることから、3月24日の教育委員会会議において導入する方針を決定しました。

9年間の系統性と一貫性のあるカリキュラムを実践するため、小中一貫教育「豊岡こうのとりのプラン」を全中学校区で実施しています。中心となる取組である「ローカル&グローバル学習の時間」で「ふるさと教育」、「英語教育」、「コミュニケーション教育」を実践しています。第2期となる2020年度からは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け「授業でつながる小中一貫教育」をテーマに取り組んでいます。

また、非認知能力向上対策事業については、3年間のモデル校での小学校低学年による演劇ワークショップにおいて、検証の結果、その効果が認められたことから2022年度から全市の小学校1年生へ取組を拡充し、更なるプログラムの更新と教職員への周知を進めて

います。

就学前の保育・教育活動については、市内の保育園、幼稚園、認定こども園の4・5歳児クラスを対象に英語遊び指導員を定期的に派遣し、「英語遊び保育」を実施し、英語や異文化への興味を育むとともに、さまざまな体験活動を通して、人と積極的にかかわろうとする気持ちを育てています。幼児期における運動遊びでは、心も体も健康で豊かな人間性を持ったこどもの育成を推進しています。

就学前の公立、私立の各園では、全ての幼児に対する教育・保育水準を確保することを目的とした「第2次スタンダード・カリキュラム」を活用し、実践の質の向上を図っています。さらに、このカリキュラムをより実効性のあるものとするため、実践のポイントや留意点などを具体的に盛り込んだ「活用の手引き」を2022年11月に作成しました。2023年度以降においては、「活用の手引き」を用いて、公私立園職員の資質の向上を図ります。

また、増加する保育ニーズや少子化の進行等の課題を総合的に解決するため、「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」(2021年2月策定)に基づき、就学前施設(幼稚園・保育所・認定こども園)の再編・統合等に順次取り組んでいます。

教育環境の整備については、安心な教育環境を確保するため、小中学校の屋内運動場等における非構造部材の落下防止対策工事を計画的に進め、2022年度対象校すべての整備を完了しました。

また、ICT環境の整備については、小中学校のインターネット接続の高速大容量化や無線LAN環境の拡充を行うとともに、教室に対する支援体制を構築することによりICTを活用した豊かな学びを提供するための環境整備を図ります。

教育委員会では、「豊岡市学校における働き方改革」推進方針に則り、勤務時間の適正化と学校教育の質の向上を図る取組を進めています。市内の全公立小・中学校における統合型校務支援システムの積極的な活用に取り組むことなどにより、教職員の意識改革が進みましたが、課題もあるため、より一層の推進を図ります。

また、学校運営に地域の声を積極的に生かし、学校と地域が一体となり特色ある学校づくりを進める学校運営協議会制度「コミュニティ・スクール」を、2022年度も引き続き、モデル校2校を対象として実施しています。2023年度は、各中学校区1校の計9校に拡充し、取組を進めます。

学校を取り巻く環境は大きく変わってきており、さらに地域の多様な声に耳を傾ける機会も多くなることが予想され、教育委員の役割はますます重要なものであると認識しています。

豊岡市教育委員会では、“常に子どもの事実に学び、子どもに寄り添う教育”を合言葉に、学校園・家庭・地域・行政がそれぞれの役割を理解し連携し、一体となって基本理念の共有と実践活動に邁進していきます。



### Ⅲ 教育委員会施策の 点検・評価

第4次とよおか教育プラン  
2022年度実践計画  
検証総括シート

## 第4次とよおか教育プラン 2022年度実践計画の検証について

### 1 実施方法

2022年度実践計画に定められている指標について、学校現場及び担当課による自己検証のほか、検証委員会による外部検証を行うとともに、年度末において教育委員会による最終検証を行った。

### 2 検証結果の示し方

検証結果は、2つの基本方針で定められた9つの基本的方向ごとに「検証総括シート」を作成し、各々で設定された指標及び施策・取組の検証、外部検証意見を取りまとめた。

また、外部検証結果及び次年度実践計画策定作業を踏まえ、年度末における最終検証を取りまとめた。

### 3 表記・記号の説明

#### (1) 指標項目について

##### ア 「■」印の指標項目

全国学力・学習状況調査（毎年4月20日頃実施・8月下旬結果公表）の結果の数値を使用。従って、実施年度の数値は前年度の取組が反映すると捉えられるが、実施年度の結果を目標値に対応させて評価することとする。

##### イ 「□」印の指標項目

全国学力・学習状況調査以外の全国調査や各担当課による独自調査、取組による結果の数値を使用。

#### (2) 指標数値について

##### ア 2021現状値

・原則は2021年度の実績値を表記するが、取組によっては前年度の実績値を表記する。この場合においては、当該年度を〔 〕で表記する。

##### イ 2022目標値

・2022年度に到達すべき目標値を設定する。

##### ウ 2022指標の実現状況

・原則は2022年度の実績値を表記するが、取組によっては前年度の実績値を表記するものがある。この場合は〔 〕内に当該年度を表記する。

・2022指標の実現状況のうち、（ ）内は2022目標差を、「○」印は2021現状値よりも改善した指標を表す。

(3) 教育委員会（担当課）及び検証委員会による検証結果の評価記号

教育委員会（担当課）検証（中間・年度末）		検証委員検証	
S	目標達成・取組完了（目標達成、事業計画完了による取組終了）	○	妥当
A	継続実施（拡充・現行方法による継続実施）	△	疑義あり
B	改善実施（取組の改善・見直しによる継続実施）	—	評価不能
C	抜本の見直し（取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要）	※担当した検証委員3名の検証を記載する。	
D	未取組廃止（効果・必要性等から取組を廃止）		

## 第4次とよおか教育プラン 2022年度実践計画 施策・取組一覧

基本方針1 「生きる力」を育む教育の推進		担当課
<b>基本的方向1 「あたまの力」の育成</b>		
<b>施策① 学力の向上</b>		
1	1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進及び全国学力・学習状況調査の結果に基づいた分析と対応	こども教育課
2	2 読書活動の習慣化と読書の質の向上をめざした読書活動の推進 <関連>	
3	3 きめ細かな指導の充実を図るための指導補助教員の配置	
<b>施策② 小中一貫教育を核とした連携教育</b>		
4	1 ふるさと教育の推進	こども教育課
5	2 英語教育の推進	
6	3 コミュニケーション教育の推進	
7	4 系統性と一貫性のある寄り添い方で実践する学習指導と生活指導の充実	
8	5 ローカル&グローバル学習の時間の充実に係る研究の推進	
9	6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた小学校区を基本単位とした「園小接続」の推進	こども教育課/こども教育課
10	7 小規模校の教育課題に対応するための「小小連携教育」の推進	こども教育課
<b>基本的方向2 「こころの力」の育成</b>		
<b>施策① 体系的・系統的なキャリア教育</b>		
11	1 多様な体験活動の実施によるキャリア形成への支援	こども教育課
<b>施策② 子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動</b>		
12	1 児童会・生徒会活動、リーダー研修会等の充実	こども教育課
13	2 福祉体験活動やボランティア活動など社会体験の機会の充実	
14	3 非認知能力向上のための取組の推進 <拡>	
15	4 子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭(おんぶの祭典)の開催	生涯学習課
<b>施策③ 対話により考えを深める道徳教育</b>		
16	1 体験的・実践的な活動を通じた道徳性の育成	こども教育課
<b>施策④ 生命の尊厳を基盤とした人権教育</b>		
17	1 今日的人権課題に対応した人権教育の充実	こども教育課
18	2 人権教育・多文化共生社会の実現をめざす教育の推進と家庭・地域・関係機関との連携の推進	
<b>施策⑤ 過去の災害の教訓を踏まえた防災教育</b>		
19	1 過去の災害を踏まえた防災・減災授業の実施	こども教育課
<b>施策⑥ 読書活動の充実</b>		
20	1 読書活動の習慣化と読書の質の向上をめざした読書活動の推進 <関連>[再掲]	こども教育課
21	2 団体貸出の推進	生涯学習課
22	3 おはなし会等の充実	
23	4 読書に関する情報の提供	
<b>基本的方向3 「からだの力」の育成</b>		
<b>施策① 体力・運動能力の向上</b>		
24	1 「豊岡市版小学校体育準備運動」の共通実践と体育授業の充実	こども教育課
<b>施策② 望ましい食習慣の形成を図る食育</b>		
25	1 食に関する指導の充実と「食育の日」、「弁当の日」の推進	こども教育課
<b>施策③ 健康課題や危機に適切に対応する健康教育・安全教育</b>		
26	1 規則正しい生活習慣の確立	こども教育課
27	2 新型コロナウイルス感染症予防のための能力・態度の育成	
28	3 安全に対する意識の高揚	

基本的方向4 「あたま・こころ・からだの3つの力を支える基礎力」の育成		
	施策① 健康な体づくり	
29	1 幼児期における運動遊びの推進	こども育成課
	施策② 基本的な生活習慣の確立	
30	1 「規則正しい生活リズム」及び「基本的な生活習慣」の定着とその推進	こども育成課
31	2 食育の推進	
	施策③ 様々な体験活動を通じた好奇心や探究心の育成	
32	1 人と関わる力の育成	こども育成課
33	2 自然や身近な環境に関わる経験の積み重ね	
34	3 英語遊び保育の推進	
	施策④ 人の話を聞き、自分の思いを言葉で表現する力の育成	
35	1 自分の思いを伝える力と人の話を聞く力の育成	こども育成課
36	2 感じたことや考えたことを表現する力の育成	
37	3 絵本に親しむ機会の充実	
基本的方向5 特別支援教育の充実		
	施策① 発達特性の理解と早期からの一貫した支援	
38	1 豊岡市こども支援センターの機能の充実	こども教育課
39	2 スーパーバイザー支援事業の実施	
40	3 教職員の専門性向上をめざした実践的研修の推進	
41	4 卒業後までを見通した教育的支援・指導の引継ぎの推進	
42	5 特別支援教育支援員の資質向上	
43	6 すくすく訪問支援事業の実施	
44	7 就学前から就学後も継続した相談支援の充実	
	施策② 共に学ぶことで豊かな人間性を育む交流及び共同学習	
45	1 市内特別支援学級の交流の実施	こども教育課

基本方針2 子どもたちの学びを支える仕組みの確立

基本的方向1 教職員の資質・能力の向上

施策① 教職員の資質と実践的指導力の向上

46	1 授業づくりと学級づくりの一体化の質的向上	こども教育課
47	2 教員の指導力の向上を図る校内研修等の推進	
48	3 校内研修担当者研修の充実	
49	4 初任者等、若手教職員の研修の充実	
50	5 豊岡市中学校教育研究会・教科部会の充実	
51	6 子ども及び教職員のICT活用指導力の向上	
52	7 就学前の教育・保育計画「第2次スタンダード・カリキュラム」及び「手引き」を活用した就学前教育の充実	こども育成課

施策② ワークライフバランスに配慮した働き方改革

53	1 「学校における働き方改革」の推進	こども教育課
----	--------------------	--------

基本的方向2 学校園の組織力の強化

施策① 教育職員一人一人の力を組織的かつ機動的に生かす協働体制の確立

54	1 管理職研修の充実	こども教育課
55	2 学校教育経営研修の充実	

施策② いじめや不登校等への対応

56	1 いじめの未然防止、早期発見・早期対応の充実	こども教育課
57	2 小・中学校と関係機関との生徒指導に係る情報交換の推進	
58	3 不登校対策の充実	
59	4 相談支援事業の実施	
60	5 「子どもの心を理解する強化月間」の充実	
61	6 「アセス」を活用した生徒指導の充実	

基本的方向3 安全・安心な教育環境の整備・充実

施策① 学校園及び給食センターの安全対策やICT環境等の教育環境の整備・充実

62	1 学校園施設等の定期的な安全点検及び整備	教育総務課
63	2 非構造部材等落下防止対策の推進	
64	3 ICT環境の整備	
65	4 地産地消の推進と安全・安心な学校給食の提供	
66	5 通学(園)路の安全点検及び関係機関・保護者・地域との連携強化	こども教育課
67	6 通学(園)手段の確保	
68	7 安全・安心な学校生活に向けた新型コロナウイルス感染症への対策	

施策② 様々な困難や課題を抱える子どもたちに対する就学支援

69	1 就学援助費の支給	こども教育課
70	2 特別支援教育就学奨励費の支給	

基本的方向4 家庭と地域による学校と連携した教育の推進

施策① 家庭における子どもが伸びる習慣づくり

71	1 「すくすくメッセージ」等を活用した「規則正しい生活リズム」の定着	こども育成課
72	2 「運動遊びパンフレット」等による家庭や地域での運動遊び・外遊びの促進	
73	3 家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立	こども教育課
74	4 ブックスタートの推進	生涯学習課

施策② 親としての学びへの支援

75	1 PTA活動の充実	こども教育課
76	2 子育て家庭を対象とした子育て講座の実施	こども育成課
77	3 親子が交流できる機会の充実	

施策③ 関係機関の連携による子育て支援

78	1 子育てに関する相談の充実	こども育成課
79	2 学校園と家庭児童相談室・こども家庭センターなどの関係機関との連携	

施策④ 地域全体で子どもを育てる環境づくり

80	1 安全ボランティアによる見守り活動の継続及び活動支援	こども教育課
81	2 学校・家庭・地域の連携強化	
82	3 「地域とともにある学校」づくりの推進	
83	4 仕事と子育ての両立支援	こども育成課
84	5 子どもと心でつながる市民運動の推進	生涯学習課
85	6 図書ボランティア活動の促進	

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2022年度実践計画検証総括シート

基本方針1	「生きる力」を育む教育の推進
基本的方向1	「あたまの力」の育成
	子どもたちが、自立して活動していくためには、十分な知識・技能、これらを基盤として自ら解を導く思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学びに向かう力・人間性等を身に付けることが重要である。 このため、①学力の向上、②小中一貫教育を核とした連携教育等に取り組む。

### 【指標の検証】

指標名	2021現状値	2022目標値	2022指標の実現状況
■「全国学力・学習状況調査」における正答率40%以下の児童生徒の割合	小国 16.0%(-3.5P)- 小算 11.7%(-3.2P)- 中国 8.8%(+0.4P)- 中数 23.2%(-2.1P)-	小国 9.3%以下 小算 6.1%以下 中国 6.9%以下 中数 20.1%以下	小国 19.2%(-9.9P) 小算 20.2%(-14.1P) 中国 8.4%(-1.5P)○ 中数 34.3%(-14.2P)
■国語、算数、数学の勉強が好きだと思っている児童生徒の割合	小国 59.4%(-9.8P) 小算 72.1%(-1.5P)○ 中国 57.8%(-8.9P)○ 中数 58.0%(-4.9P)○	小国 63.4% 小算 72.8% 中国 65.8% 中数 64.1%	小国 57.5%(-5.9P) 小算 66.2%(-6.6P) 中国 50.4%(-15.4P) 中数 57.1%(-7.0P)
■授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う児童生徒の割合	小 84.6%(-1.8P) 中 81.2%(+1.4P)○	小 86.4% 中 86.0%	小 85.9%(-0.5P)○ 中 80.7%(-5.3P)
■話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う児童生徒の割合	小 82.8%(-2.1P) 中 80.3%(-5.3P)	小 83.8% 中 82.8%	小 87.0%(+3.2P)○ 中 81.2%(-1.6P)○
■家庭など学校での授業以外で平日に学習時間が30分以上の児童生徒の割合(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	小 89.7%(-5.5P) 中 93.6%(+1.0P)○	小 92.0% 中 95.0%	小 88.0%(-4.0P) 中 87.5%(-7.5P)
■地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童生徒の割合	小 55.9%(-8.0P) 中 50.7%(-0.7P)	小 57.4% 中 51.4%	小 54.8%(-2.6P) 中 43.6%(-7.8P)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

### ※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ 2022指標の実現状況のうち、( )内は対2022目標差を、○印は2021現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S: 目標達成・取組完了。(目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A: 継続実施(拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B: 改善実施(取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C: 抜本的見直し(取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D: 取組廃止(効果・必要性等から取組を廃止)		

【施策と取組の自己検証】

施策 ① 学力の向上	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進及び全国学力・学習状況調査の結果に基づいた分析と対応	A	○○○	A	こども教育課
2 読書活動の習慣化と読書の質の向上をめざした読書活動の推進	B	○○○	B	
3 きめ細かな指導の充実を図るための指導補助教員の配置	A	○○○	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

全国学力・学習状況調査における豊岡市の平均正答率は全国と同等である。質問紙では、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている児童生徒の割合は依然として高く、継続した取組の効果が見られる。一方、読書をしている児童生徒の割合は、いずれも全国平均を下回っており、学力テスト終盤の問題で白紙の回答が目立つことから、質、量ともに読む力の育成は欠かせない。今後、全国学力・学習状況調査の分析を重ね、豊岡市学力向上検討委員会による授業アイデアの提案や、5つの『徹底・継続』実践事項に基づいた授業づくりを進め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を継続していく。

施策 ② 小中一貫教育を核とした連携教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 ふるさと教育の推進	A	△○○	A	こども教育課
2 英語教育の推進	A	○○○	A	
3 コミュニケーション教育の推進	A	○○○	A	
4 系統性と一貫性のある寄り添い方で実践する学習指導と生活指導の充実	A	○○○	A	
5 ローカル&グローバル学習の時間の充実に係る研究の推進	A	○○○	A	
6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた小学校区を基本単位とした「園小接続」の推進	A	○○○	A	
7 小規模校の教育課題に対応するための「小小連携教育」の推進	A	○○○	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

ふるさと教育では、ふるさと豊岡そのものを体験を通して学ぶこと、探究的な学びの場として教科横断的に学んでいく学び方を大事にする。英語教育では、外国語活動や英語としての学びに加えて、学んだことを活用し表現する力を高めるため、さらなる工夫が必要である。コミュニケーション教育は、通常の授業におけるコミュニケーション能力育成の視点を生かしつつ、教科本来のめあてが達成できるように研究することが重要である。

今後も、豊岡の特徴的なローカル&グローバル学習の時間の実践を重ね、子どもたち一人一人に確かな力をつけていく。



施策①-1

「国語、算数、数学の勉強が好きだと思っている児童生徒の割合」がのきなみ低下していることが気になる。学力向上への早道は教科に興味関心を高め、好きになることだと思う。

「全国学力・学習状況調査における正答率40%以下の児童生徒の割合」についても、のきなみ目標値を下回っている。平均正答率は全国と同程度だとのことだが、学力の2極化が進んでいることを意味していると思われる。

各教員の「授業における5つの徹底継続・実践事項」への意識は確実に高まってきている。市教委が一貫した指導を続けている成果である。

豊岡市学力向上検討委員会が、それぞれの教科結果の分析を行ったり、それについての対応策を適切に練ったりしている。

施策①-2

定期的(日曜日)に図書館から「新刊案内」のメールが配信されており、こうした取組の継続は読書への意欲付けにつながるものである。

学校の授業時間以外に読書を「全くしない」と回答した生徒の割合が高く、読書習慣が定着しない状況が見られる。ICTの普及により、読書に充てる時間よりも、スマートフォン等を操作する時間が圧倒的に長い。読書活動の推進を単独で考えるのではなく、スマホ対策を同時に考える必要があると思う。

小学校と図書館の連携について、小学校と図書館が生徒にどのように伝えることで読書習慣に繋がるかについて情報共有や話し合いをしているという話を直接聞いた。子どもたちのためにすごく連携されているなと感じたことがあった。先生が図書館に出向かされている姿もお見掛けしたこともあった。今回、検証委員となり、個票を見て改めてこのような取組をされていることを知る機会となった。今後も継続を希望する。

子どもの読書活動をより促進させるための手段が色々と講じられている点は良いかと思うが、どのような取組に効果があったのか、を明確にできる方法も必要かと考える。

施策①-3

特別な支援を要する児童生徒が増えている中、特別支援教育支援員、特別支援教育アドバイザー、不登校対策指導補助教員等はそれぞれのニーズに応じ、学校教職員と連携し、大きな効果を上げている。

こども園に子どもを通わせている保護者からセンター利用時に話を聞く機会があった。小学校に入学するにあたり、発達に不安があるため、通常学級に入れるかどうか悩んでいた。母は健康増進課で保健師と話し、その後、こども育成課からは園での本児の様子を見にきてくれた。母は小学校へ見学にも行ったようである。

我が子にとってどのようにすることが良いのかと悩む保護者にとって、あらゆる分野と連携されていることは、初めての学校生活に抱く不安を少しでも削減できているのではないかと感じた。今後も継続を希望する。

施策②-1

各校が実態に応じて、計画的にふるさと教育を実施し、「ふるさとを愛する心」を育んでいる。

「地域や社会をよくするために何をすべきか考える児童生徒の割合」が概ね50%程度であり、目標値を下回っている。地域の行事に参加する生徒も少ない実態がある。本当の意味での「ふるさと愛」を高めていく必要を感じる。

「勉強が好き」と思える要因に、学習内容に対する興味関心や友だち・教職員等との良好な人間関係が挙げられます。今後も、授業づくりと学級づくりを一体的にとらえ、授業で子どもに寄り添い、授業で学級をつくっていきます。

近年の傾向を見ると、全体的に学力が伸び悩んでいる傾向にあります。すべての子どもたちの学力を底上げするため、子どもたちが主体的に、協動的に学び合う場を設定し授業改善を図っていきます。

授業時間以外の読書、スマートフォン等への対策は、ともに家庭に協力を得ることが不可欠です。PTAとの連携を含めた取組を進めていきます。

また、各校や中学校区の取組で、参考となるものは積極的に周知していきます。

小・中学校と図書館との連携については、今後も、おはなし会の開催、図書委員会の活動へのアドバイス、団体貸出等を継続、拡充していきます。

効果の検証は必要であると考えており、その方法等を模索していきます。

特別支援教育アドバイザーと学校園との連携は、今後も重要になると考えています。また、特別支援教育支援員の拡充を求める学校園の声は依然として大きいです。拡充とともに研修等で支援員の専門性のさらなる向上を図っていきます。

子育てや就学について相談しやすい環境が整っていることは、保護者に大きな安心を与えます。豊岡市発達障害児等支援連絡会議、豊岡市障害者自立支援協議会こども部会での取組を中心に、福祉・医療・教育の連携を引き続き図っていきます。

「コウノトリ」「ジオパーク」「産業・文化」の共通学習課題だけでなく、各地域や学校区の学習素材を使った学びを充実させることにより、子どもたちの地域に対する思いや意識の向上を図っていきます。

#### 施策②-2

概ね、計画通りに進められていると思う。コロナの影響で来日が大幅に遅れていたALTの配置が元に戻ってきたこともありがたい。

English Summer Campについて今年も中止とのことだった。ICT活用も含めて、実施の可能性を模索してほしいと考える。

#### 施策②-3

各校が市教委の指導のもと、計画的に推進している。様々な教育活動を通し、コミュニケーション力の向上を目指す機運も高まっている。

保護者や地域の方に、コミュニケーション授業(演劇的手法)の重要性や実施後の成果を説明する必要は感じる。

#### 施策②-4

各ブロック単位で系統性と一貫性のある指導は定着してきている。子どもだけでなく保護者の中学校入学への不安は小さくなってきていると思われる。

#### 施策②-7

小中連携は、子どもたちの「関わり合い」を重視する取組として良いと思うので、継続してほしい取組だと考える。一方で、個票にもあるように、教職員の負担をどのように軽減しつつ、質を確保するのか、についての検討についてもぜひ進めてほしいと考える。

当初計画に沿ったALTの全校配置が実現できています。ネイティブの英語に触れる機会のさらなる充実を図っていきます。

集合対面形式での実施を念頭に、状況に応じて適切な方法を検討していきます。

コミュニケーション授業等の取組をオープンスクール等で公開したり、学校通信、学校HPで授業に対する子どもの声を掲載したりするなど、保護者や地域への情報発信に力を入れていきます。

これからも各ブロックの実態に応じて、取組の質を高めるとともに、小中一貫だより等を通して、保護者や地域への情報発信に努めていきます。

これまでの取組を検証し、負担の軽減や効果的な取組のあり方について、引き続き検討します。

#### 〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

子どもたちが、変化の激しい社会に主体的に関わり、未知の状況にも対応するため、「知識及び技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」が求められている。そのため、①学力の向上、②小中一貫教育を核とした連携教育等に取り組んでいる。

全国学力・学習状況調査における豊岡市の平均正答率は、全国平均正答率と同程度であった。ポストコロナを踏まえ、本来学校が得意とする、子どもが主体的に、協働的に学び合う場を充実させ学力の向上を図る。また、小・中学校のすべての教職員が「授業における5つの『徹底・継続』実践事項」の質の向上を図り、小・中学校が連携し「授業でつながる小中一貫教育」の具現化をめざす。

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2022年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	「生きる力」を育む教育の推進
基本的方向 2	「こころの力」の育成
	<p>子どもたちが、人間ならではの感性を働かせて、より豊かに活動していくためには、発達段階に応じた体験的な活動を通じて、子どもたちの豊かな情操や道徳心を培うことが重要である。</p> <p>このため、①体系的・系統的なキャリア教育⑦、②子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動、③「対話」により考えを深める道徳教育、④生命の尊厳を基盤にした人権教育、⑤過去の災害の教訓を踏まえた防災教育、⑥読書活動の充実等に取り組む。</p> <p>なお、読書活動は、教育プランに基づく方策を新たな「子どもの読書活動推進計画」に位置付け、総合的かつ体系的に取り組を進めていく。</p>

### 〔指標の検証〕

指標名	2021現状値	2022目標値	2022指標の実現状況
■ 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	小 79.3% (-9.5P) 中 67.6% (-7.9P)	小 85.3% 中 73.6%	小 82.3% (-3P)○ 中 63.6% (-10P)
■ 自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	小 85.8% (-1.0P)○ 中 75.8% (-3.3P)○	小 87.4% 中 81.2%	小 81.8% (-5.6P) 中 77.6% (-3.6P)○
□ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると思う児童生徒の割合	小 96.3% (-3.7P)○ 中 93.9% (-5.0P)○	小 96.4% 中 95.2%	小 96.1% (-0.3P) 中 94.4% (-0.8P)○
□ 学級みんなで話し合っ決めてことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある児童生徒の割合	小 90.2% (-4.1P) 中 87.8% (± 0P)○	小 94.3% 中 2021現状値以上	小 92.4% (-1.9P)○ 中 89.8% (+2.0P)○
■ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり30分以上読書をする児童生徒の割合(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)	小 32.3% (-12.5P) 中 26.7% (-5.3P)	小 42.4% 中 33.9%	小 32.6% (-9.8P)○ 中 19.7% (-14.2P)
□ 図書館の団体貸出を利用した学校園の数	園 10園 (-6園) 小 23校 (-4校) 中 2校 (-2校)	園 16園 小 25校 中 4校	園 9園 (-7園) 小 24校 (-1校)○ 中 1校 (-3校)
□ 図書館が行うおはなし会等の実施学校園数	園 3園 (-9園) 小 2校 (-6校)○ 中 0校 (-3校)	園 12園 小 8校 中 3校	園 4園 (-8園)○ 小 6校 (-2校)○ 中 0校 (-3校)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

### ※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ 2022指標の実現状況のうち、( )内は対2022目標差を、○印は2021現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了(目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施(拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施(取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し(取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止(効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策① 体系的・系統的なキャリア教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 多様な体験活動の実施によるキャリア形成への支援	A	△○○	B	こども教育課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) コロナ禍による様々な制限がかかる中、各校では工夫しながら体験活動等を実施している。今年度、「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」は、2021年度現状値と比べて、小学校では上回ったが、中学校では下回り、目標値には届かない結果となった。昨年度変更または中止せざるをえなかった体験活動がキャリア形成をする上でとても重要なものであることがわかる。 今後も工夫を凝らしながら、キャリアの視点に立った教育活動を実施し、キャリア教育を浸透させていくことを各校に求めていく。				

施策② 子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 児童会・生徒会活動、リーダー研修会等の充実	A	○○○	A	こども教育課
2 福祉体験活動やボランティア活動など社会体験の機会の充実	A	○○○	A	
3 非認知能力向上のための取組の推進	A	○○○	A	
4 子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭(おんぷの祭典)の開催	A	○○○	A	生涯学習課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 令和4年度の全国学力・学習状況調査質問紙の結果では「自分にはよいところがある(小81.8%・中77.6%)」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある(小96.1%・中94.4%)」と思う児童生徒の割合は、高い水準で推移している。こうした自分の人生や社会を切り拓く力となる「非認知能力」の向上を図る取組を強力に推進するため、非認知能力向上事業の演劇ワークショップの授業公開や事後研修会を開催し、さらなる理解と実践を共有していく。 年度末には、拡大検証会議を開催し、今年度の成果を共有し、教育活動に反映できるよう情報発信する。				

施策③ 「対話」により考えを深める道徳教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 体験的・実践的な活動を通じた道徳性の育成	A	○○○	A	こども教育課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 全教育活動と道徳教育との関連を図りながら、児童生徒が物事を多面的・多角的にとらえ、自分自身のこととして考えを深める、他者や自己との「対話」のある授業づくりを推進している。さらに、なぜ問題が生じたのかを調べたり、話し合ったりする「問題解決的な学習」や教材の中の役割を演じたり、動作化したりする「道徳的行為に関する体験的な学習」等を適切に取り入れた授業づくりを進めている。 今後も学校の教育活動全体で道徳教育に取り組みつつ、積極的な授業公開等により家庭、地域とも連携しながら子どもたちの道徳性の育成に努めていく。				

施策④ 生命の尊厳を基盤にした人権教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 今日的人権課題に対応した人権教育の充実	A	○○○	A	こども教育課
2 人権教育・多文化共生社会の実現をめざす教育の推進と家庭・地域・関係機関との連携の推進	A	○○○	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 人権教育資料(改訂版「ほほえみ」「きらめき」)等を入権教育年間指導計画に位置付け、市内すべての小・中学校において人権教育資料を活用した人権教育を計画的に行っている。さらに、共生社会の実現に向け、児童生徒が、男女共同参画や多文化共生等への理解を深め、多様な生き方の中から自らの生き方を考えられるよう、児童生徒一人一人の個性を大切にするとともに、その能力を生かす教育の充実に取り組んでいる。 今後も、教職員の人権意識の高揚と指導力の向上を図っていくとともに、家庭、地域、関係機関との連携を強化しながら、児童生徒が、あらゆる人権課題に対し、主体的に解決しようとする実践的な行動力を育成していく。				

施策⑤ 過去の災害の教訓を踏まえた防災教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 過去の災害を踏まえた防災・減災授業の実施	A	○○○	A	こども教育課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 年間3回のメモリアルデーでの防災・減災教育を中心に、すべての学校園で計画的な防災教育を実践している。また、消防署等の関係機関や地域の防災士等との連携、保護者参加型の授業や訓練等も実施されている。 今後も家庭、地域、関係機関等との連携強化に努め、地域の災害の特色を意識しながら取り組むことにより、防災教育・防災体制の一層の充実を図っていく。				

施策⑥ 読書活動の充実	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 読書活動の習慣化と読書の質の向上をめざした読書活動の推進	B	〇〇〇	B	こども教育課
2 団体貸出の推進	A	〇〇〇	A	生涯学習課
3 おはなし会等の充実	A	〇〇〇	A	
4 読書に関する情報の提供	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
 子どもたちの読書活動の習慣化を図るため、朝学習等を活用した「朝読書」や「家庭読書」に取り組んでいる。  
 図書館では、各校に新刊やイベントの案内を送付し、児童生徒が図書館を訪れるきっかけづくりを行っている。また、図書館司書が学校に出向いて図書館委員会の活動にかかわる、小学1年生に図書館利用のチラシを配布する、児童のタブレット端末から図書館の情報を閲覧できるなど、様々な取組を通じて子どもの読書活動を推進している。

施策①-1

コロナ禍の中で、各校が工夫をして体験活動に取り組んだことは高く評価できる。しかし、「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」が中学校のほうが低いのは気になる。キャリアを積んで夢が現実的になるというのは分かるが、中学校のほうが夢や目標のない子どもが多いというのは、あまりにもさみしい。キャリアパスポートの有効活用、トライやる・ウィークの事前・事後指導の充実、進路指導の充実を通して改善していただきたい。

自然学校、トライやる・ウィーク、ふるさと教育は有意義な体験であり、継続してほしい。

施策②-1

オンラインではあったが「豊岡市中学校生徒会リーダー研修」が行われたことは、有意義であった。小学校でも感染症対策に気を配りながら、児童会の主体的な活動が行われている。今後も継続を希望する。

コロナ禍の中、工夫を凝らし、オンラインで実施された。小中学生の頃からリーダーを経験することは、将来のリーダー育成につながるので、継続実施を望む。

施策②-2

社会体験の機会の充実は、今後の児童生徒の健全な成長に欠かせない。感染症対策をとりながら、継続して実施することを希望する。

福祉体験やボランティアを体験することは、他者を思いやる心を育むことになる。地域の人々等の協力を得て、継続実施を望む。

施策②-3

小学校1年生での演劇ワークショップ全校実施により、ファシリテーターの対応から学ぶことで、担任の児童への関わり方が変わってきている。今後も演劇ワークショップの授業公開や事後研修会を通して、非認知能力の育成に継続的に取り組むことを希望する。

施策②-4

本物の芸術に触れる貴重な機会である。今後も継続して実施することを希望する。

施策③-1

方向性としては学習指導要領に対応した正しい取組である。しかし、現状としては「考え、議論する道徳」が十分浸透していないというのが実感である。市教委からも情報提供をいただいて、さらに「考え、議論する道徳」の授業づくりが進むよう希望する。

施策④-1

各校とも人権教育に力を入れて取り組み、オープンスクールで授業公開もしている。取り組むべき課題は多様になっているが、今後も人権意識の高揚に向けて継続して実施することを希望する。

施策④-2

インターネットによる人権侵害について、各校で児童・生徒・保護者共に学習を進めているところである。中学校において、インターネットによる人間関係のトラブルがあるようにも聞く。今後とも、学校・家庭・地域が連携して、トラブルの未然防止を図るよう希望する。

体験活動の変更・中止等により、目指していたキャリア形成が十分ではなかったと捉えています。今後は活動のあり方の工夫、事前・事後指導の充実を図り、将来の夢や目標を具体化できる児童生徒の育成に努めます。

実施方法を検討する場合がありますが、工夫しながら取組を継続していきます。

来年度は対面集合式での実施を予定しています。児童会・生徒会活動、リーダー研修会等のさらなる充実に努め、将来のリーダー育成につなげていきます。

自然体験、社会体験等、さまざまな体験活動を行うこと、地域を支える取組に触れることは、大変有意義な学びにつながります。今後も保護者や地域の方々、関係機関等と連携しながら取り組んでいきます。

来年度は小学校1年生に加え、希望する小学校2年生でも実施します。評価、検証結果を踏まえ、すべての小学校1・2年生での実施につなげる予定です。

第10回まで継続して音楽祭を開催し、市内すべての小中学校で2巡目の訪問コンサートを実施する予定です。

県教委「道徳教育実践研究事業」「道徳教育拠点校育成支援事業」等の取組を中心に、今後も先進的な事例等を各校に情報提供していきます。

今後も道徳、人権教育の授業をオープンスクールや授業参観で積極的に公開することにより、家庭や地域の理解と協力を得ながら、地域全体で子どもたちの人権意識の高揚を図っていきます。

インターネットによる人権侵害は、小中学校ともに大きな課題の一つです。家庭とも連携し、全学年で情報モラル教育とあわせた人権教育に取り組んでいきます。

#### 施策⑤-1

毎年防災授業に関わる資料をアップグレードしていただき、感謝の思いでいっぱいである。今後も地域に根差した防災教育を継続して実施することを希望する。

いつ発生するかわからない災害へ備える教育は、とても重要である。

#### 施策⑥

1-1-①-2とも関わるが、読書活動の充実に向けて、様々な取組を実施している点は良いと思う。更なる充実のためにも、読書活動の充実について、実際に読書をする児童生徒からアイデアを集めることは、学習活動としても面白い。

#### 施策⑥-1

学校としては、読書の習慣が身につくよう様々な取組をしているが、家庭における読書習慣の定着には至っていないというのが現状である。家庭に向けて、身近に本のある環境を整える、大人が本を読む姿を見せるなどの大切さを啓発し、家庭での読書習慣の定着を図るよう改善し実施することを希望する。

こども園に入園したら、市が読書日記帳を配布し、どんな本をどれだけ読んで、どう感じたかを記録するように小学校卒業まで継続してはどうか。

子どもたちの読書活動の習慣化は有意義であり、特に中学生の読書活動の推進が必要である。

#### 施策⑥-2

多くの学校が団体貸出を活用し、学級の本が充実している。今後とも継続して実施することを希望する。

#### 施策⑥-3

コロナ対応で取りやめている学校もあるようだが、多くの学校で読み聞かせボランティアによる読み聞かせが行われ、読書に対する興味を持たせることができている。今後とも継続して実施することを希望する。

#### 施策⑥-4

図書館の情報提供を受けることで、図書館の利用が進んでいることは素晴らしいことである。今後とも継続して実施することを希望する。

北但大震災、台風23号メモリアルデー、阪神淡路大震災を中心に、引き続き、豊岡の災害特性を踏まえた防災教育に取り組んでいきます。

また、資料に対する学校や市教育委員会からの意見を積極的に防災課に伝えるなど、今後も連携を図っていきます。

小・中学校の図書委員会の活動に、図書館の司書等が指導助書する取組があります。その中で、読書活動の充実に向けた子どもたちの考えを聞いてみたいと考えます。

授業時間以外の読書、スマートフォン等への対策は、ともに家庭に協力を得ることが不可欠です。PTAとの連携を含めた取組を進めていきます。

また、各校や中学校区の取組で、参考となるものは積極的に周知していきます。読書記録の見える化は、読書推進を図るうえで、有効な手段の一つであると考えます。こども育成課とも検討していきます。

中学生の読書活動の推進は、喫緊の課題であると捉えています。「読書活動を取り入れた指導の充実に係る研究を推進する学校」の取組を周知するなど、推進していきます。

現在は貸出依頼の提出期限を2週間前までとじていますが、来年度からは、1週間前までに変更します。

今後も利用しやすい環境づくりに努めていきます。

「おはなしキャラバン」では、読み聞かせの他にストーリーテリング(物語を語る)やブックトーク(テーマに関連する本を複数紹介する)も行っています。いずれも読書推進のための有効なツールであり、学校で活用されるよう周知に努めます。

2020年度から図書リストを8種類作成し、小学校に配布してきました。リスト作成はいったん終了し、来年度からは既存リストを活用した図書の紹介を行い、読書推進につなげていきます。

#### [基本的方向における総括:教育委員会年度末検証]

コロナ禍による体験的な活動の制限、子どもが活躍する場の減少、読書の減少とスクリーンタイムの増加等の家庭での生活習慣の乱れなど、子どもの心は依然として厳しい状態にある。学校では、こころのケア・アンケート、アセス、全教職員による子どもの見守りなどにより、子どもの実態を丁寧に把握し、学校教育全体で子どもの心と体の安定を図っている。

今後、子どもが選択し決定する場を保障したり、仲間とやり遂げる場を確保するなど、子どもが主体となる教育活動をさらに充実させることが重要である。さらに、教育活動を非認知能力向上の視点で考え、実践していきたい。特に、読書は感性を磨き、心に豊かさを与え、人生をより深く魅力的なものにしていく上で、子どもにとって欠くことのできないものであり、引き続き、家庭や図書館との連携を大切にしながら、読書活動の習慣化をめざした取組を進めていく。

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2022年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	「生きる力」を育む教育の推進
基本的方向 3	「からだの力」の育成
	子どもたちが、活力を持って創造的に活動していくためには、スポーツを楽しみ継続して運動できる資質・能力の育成を図るとともに、健康で安全な生活を送るための基盤となる心身の調和の取れた発達を図ることが重要である。 このため、①体力・運動能力の向上、②望ましい食習慣の形成を図る食育、③健康課題や危機に適切に対応する健康教育・安全教育等に取り組む。

### 〔指標の検証〕

指標名	2021現状値	2022目標値	2022指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 新体力テストにおける小学校5年生と中学校2年生の体力合計点のT得点	小5男 52.2 (+1.4)- 小5女 51.5 (-1.1)- 中2男 50.4 (-0.2)- 中2女 49.8 (-0.4)- (全国平均T得点50)	小5男 2021現状値以上 小5女 2021現状値以上 中2男 2021現状値以上 中2女 50.0	小5男 52.1 (-0.1) 小5女 51.4 (-0.1) 中2男 51.2 (+0.8)○ 中2女 52.0 (+2.0)○ (全国平均T得点50)
<input type="checkbox"/> 体育の授業は楽しいと思う児童生徒の割合	小 95.4% (-0.3P)- 中 90.6% (-0.2P)-	小 96.5% 中 91.5%	小 93.5% (-3.0P) 中 90.9% (-0.6P)○
<input checked="" type="checkbox"/> 朝食を毎日食べる児童生徒の割合	小 88.0% (-3.7P)○ 中 85.4% (-1.9P)○	小 90.8% 中 86.8%	小 87.7%(-3.1P) 中 80.3%(-6.5P)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

### ※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ 2022指標の実現状況のうち、( )内は対2022目標差を、○印は2021現状値よりも改善した指標を表す。



教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ① 体力・運動能力の向上	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 「豊岡市版小学校体育準備運動」の共通実践と体育授業の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 幼児期から系統的な指導を継続することは、子どもたちの体力や基礎的な運動能力の向上につながる。各小学校において、「豊岡市小学校体育準備運動」等を継続実施している。「からだの力」の育成の柱として定着と充実を図るため、今後も確実に実践を積み重ねていくことが必要である。 本市では、今後集計される豊岡市体力テストの結果を基に実態把握に努めていく。				

施策 ② 望ましい食習慣の形成を図る食育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 食に関する指導の充実と「食育の日」、「弁当の日」の推進	A	〇〇〇	A	こども教育課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 栄養教諭や給食センターと連携し、望ましい食習慣・栄養バランス等についての食育指導や地域食材の収穫体験活動を行っている。また、各教科等の中での食育を充実させたり、毎月19日の「食育の日」や「弁当の日」、さらに食育だよりの発行等を通して、家庭と連携した食に関する指導を行ったりしている。 引き続き、学校園の教育活動全体を通して、取組を推進し、食に関する教育の充実を図っていく。				

施策 ③ 健康課題や危機に適切に対応する健康教育・安全教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 規則正しい生活習慣の確立	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 新型コロナウイルス感染症予防のための能力・態度の育成	A	〇〇〇	A	
3 安全に対する意識の高揚	A	〇〇〇	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 学校園だより等の発行、外部講師など専門機関と連携した研修会の開催等を通して、児童生徒や保護者に規則正しい生活習慣の大切さを呼び掛けている。また、保健指導等を通して、心身の健康課題の解決に向けて、発達段階に応じた知識を身につけ、適切に対応できるように努めている。 今年度も新型コロナウイルス感染症が猛威を振っているため、引き続き、家庭と連携しながら感染予防に向けた指導を図っていく。				

基本的方向全般

園だより等を通して、「食」や「睡眠」の大切さについて働き掛けているが、浸透していきにくい。今後も継続した取組が必要だと感じる。

施策①-1

豊岡市版小学校体育準備運動は、十分に体を動かすために考えられており、子どもたちの活動量や基礎的な運動能力を維持するためにも必要な取組だと思う。また、幼児期からの全身運動が「あたまの力」と「こころの力」を育てる土台となる。今後も継続を希望する。

施策②-1

栄養士や養護教諭が園に来られ、食育指導・保健指導をいただいている。また、食育だよりも定期的に発行され、家庭と連携した取組がなされている。引き続き、充実した取組をお願いしたい。

施策③

子どもの成長に必要な睡眠・食事を基本に生活習慣の大切さを親子で見直し、意識付けをし習慣づける機会となっており、新型コロナに対する正しい知識を身に付けさせるにも良い機会になっていると思う。

施策③-1

睡眠・食事・運動が生活リズムを整える鍵だと思う。「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、PTA等を巻き込み、家庭と連携しながら取り組む必要があると感じる。

施策③-3

近年、子どもたちに対する声掛け事案の発生、交通事故等ある中、地域全体で子どもたちを見守り、声掛けの防止や交通事故の抑制につなげられており、良いと思う。

各学校園の授業や学校園だより、小中一貫教育による各ブロックの取組等を通して、引き続き、「食」や「睡眠」の大切さを啓発します。

引き続き、系統性、連続性を重視しながら、取組の質的向上を図っていきます。

栄養教諭等による専門的な指導や「食育の日」「弁当の日」の取組等を継続して行い、食育のさらなる充実を図っていきます。

今後もPTAや関係機関と連携を取り、家庭への啓発に力を入れていきます。

児童生徒だけで規則正しい生活習慣を確立することはできません。地域全体の課題ととらえ、PTAをはじめとする関係団体等と積極的に連携を図り、改善に向けて取り組みます。

今後も警察等関係機関と連携を取りながら、防犯・交通安全教室を実施するなど、取組を推進していきます。

〔基本的方向における総括：教育委員会年度末検証〕

学校や家庭において、子どもたちに運動することの大切さを伝えるとともに、運動の楽しさを実感させることが運動する習慣の定着につながるものと考えます。今年度の新体力テストでは、全国的に体力低下が見られる中、豊岡市の児童生徒は例年と同等の結果を維持していることが分かった。「幼児期からの運動遊び」や「豊岡市版小学校体育準備運動」を進めてきたことが体力の維持につながっていると考える。

これからも、系統性と連続性を重視したこれらの取組を進めるとともに、授業内容を工夫して運動する楽しさや喜びを味わわせる取組を進めていく。また、子どもたちが健康で安全な生活を送るために、家庭や関係機関と緊密な連携を図りながら、取組の充実を図っていく。

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2022年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	「生きる力」を育む教育の推進
基本的方向 4	「あたま・こころ・からだの3つの力を支える基礎力」の育成
	子どもたちが、乳幼児期において、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して、人間としてよりよく生きるための基礎を培うとともに、心身共に健やかに成長する土台となる基本的生活習慣等を育成することが重要である。 このため、①健康な体づくり、②基本的生活習慣の確立、③様々な体験活動を通じた好奇心や探究心の育成、④人の話を聞き、自分の思いを言葉で表現する力の育成等に取り組む。

### 〔指標の検証〕

指標名	2021現状値	2022目標値	2022指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 体を動かして遊ぶことが好きな園児の割合	99.4% (+0.5P) ○	2021現状値以上	98.9% (-0.5P)
<input type="checkbox"/> 友だちと遊ぶことが好きな園児の割合	99.3% (-0.3P)	99.6%	99.6% (±0P) ○
<input type="checkbox"/> 午後9時までには就寝する園児の割合	38.6% (-28.4P)	67%	32.6% (-34.4P) (※に参考値記載)
<input type="checkbox"/> 毎日朝食を食べている園児の割合	94.8% (-1.3P)	96.1%	97.4% (+1.3P) ○
<input type="checkbox"/> 毎週1回以上、家庭で絵本の読み聞かせをしている家庭の割合	67.1% (-7.9P) ○	75%	60.3% (-14.7P)
<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育園・認定こども園に行くことが楽しいと思っている園児の割合	98.7% (-0.6P)	99.3%	97.6% (-1.7P)
<input type="checkbox"/> 「おはよう」などのあいさつや「ありがとう」のお礼が言える園児の割合	96.3% (+3.8P) ○	2021現状値以上	92.8% (-3.5P)
<input type="checkbox"/> 家で遊んだ後に、おもちゃなどの片付けができる園児の割合	65.1% (-2.3P)	67.4%	65.7% (-1.7P) ○

※「午後9時半までには就寝する園児の割合」の2022現状値は79.1%

… 各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ 2022指標の実現状況のうち、( )内は対2022目標差を、○印は2021現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了。(目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施(拡充:現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施(取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し(取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止(効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策① 健康な体づくり	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 幼児期における運動遊びの推進	A	〇〇〇	A	こども育成課

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
「体を動かして遊ぶことが好きな園児の割合」は、アンケート調査開始時期の2014(H26)年度から98.5%以上を維持し、2021(R03)年度の調査では99.4%の最高値を示した。  
これは、園児の体力向上を主な目的とするのではなく、園児自身が「体を動かして遊びたい」という内面を大切にしながら、「体を動かして遊ぶことの楽しさ」を存分に感じられる保育を追求してきた結果の一つだと考える。  
引き続き、体の力を育成する取組としてだけでなく、保育者の子どもとの関わりや子ども同士の関わりを通して、非認知能力を十分に発揮しながら、豊岡の子どもたちの育ちを支える礎の取組みとして、今後も重点的に取り組んでいきたい。

施策② 基本的な生活習慣の確立	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 「規則正しい生活リズム」及び「基本的な生活習慣」の定着とその推進	A	〇〇〇	A	こども育成課
2 食育の推進	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
基本的な生活習慣を身に付けることは心身ともに健康で社会生活を送る上で重要であり、園と家庭が連携をとりながら、援助や支援を行っている。また、養護教諭や栄養士による巡回指導は、子どもたちが望ましい生活習慣に関心を持ったり、家庭への意識付けにつながりしている。定着するために一人一人に合った援助や保育に繰り返し、根気よく取り組んでいきたい。

施策③ 様々な体験活動を通じた好奇心や探究心の育成	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 人と関わる力の育成	A	〇〇〇	A	こども育成課
2 自然や身近な環境に関わる経験の積み重ね	A	〇〇〇	A	
3 英語遊び保育の推進	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
この施策は、取組1～3の内容を関連付けて取り組む大切さを感じている。特に、「人と関わる力の育成」については、コロナ禍において直接的な体験が難しい状況であるが、園内で工夫して取り組んでいる。取組2・3の経験を積み重ねることが、自信となり、「人と関わる力の育成」へつながっていると考える。引き続き、子どもから学ぶ姿勢と子どもに寄り添う姿勢を基本に、保育者も楽しみながら取り組んでいきたい。

施策④ 人の話を聞き、自分の思いを言葉で表現する力の育成	中間外部検証		年度末検証	担当課
	担当課	検証委員会	担当課検証	
1 自分の思いを伝える力と人の話を聞く力の育成	A	〇〇〇	A	こども育成課
2 感じたことや考えたことを表現する力の育成	A	〇〇〇	A	
3 絵本に親しむ機会の充実	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
この施策においては、保育者との信頼関係が不可欠である。一人一人をしっかりと受け止め、丁寧で応答的な関わりを通して、子ども理解を深めるとともに、取組内容を総合的に考え、実践することにより、それぞれの力を育成することにつながっていると感じている。今後は、今までの経験を踏まえ、子ども一人一人がより自信を持てるように、保育者一人一人が関わりを意識したり、環境を見直したりして取り組んでいきたい。

施策①-1

体を動かして遊ぶ機会が、職員の意識と共に、日常の保育に定着していると感じる。しかし、園生活の中でも、体を支えきれない、転んでも手をつかないなどの子どもの姿も増えてきていると感じる。全ての子どもたちが、体を動かすことが楽しいと感じることや生活の中で対応できる力の育成を目指して、継続した取組を望む。

施策②-1.2

子どもたちが成長していくうえで、外すことができない大切な内容である。また、確立や定着をするためには、園と家庭との連携が不可欠であるが、難しい現状もある。今後も家庭への啓発や意識付けができる工夫を行いながらの継続した取組を望む。

施策③

園では、英語遊び等に取り組んでおられ、子どもからもよく聞いている。また、園児の数が少ないため年少と年長が合同で活動しているが、年長が年少の園児の面倒を見るなど、よいことだと思う。

施策③-1~3

遊びから学ぶこの時期に、様々な経験を重ねていくことで、人との関わり方も学んでいくと考える。取組1~3との繋がりを大切にしながら、継続した取組を望む。

また、取組1と2については、日常の保育・教育の中でも、重要な項目であると考え、職員の共通認識や連携、資質向上を目的とした取組が必要だと感じる。

施策④-1.2

施策③-1.2にも関連している大切な取組だと考える。人の話を聞く、伝える、表現することは、育てたい力にも直結するため、継続した取組をお願いしたい。

施策④-3

絵本に親しむ機会の充実は、家庭への啓発や園での取組や環境づくりが大切であると感じる。

幼児期の体づくりは、心の成長にも大きな影響を与えていることを踏まえ、園では、子どもたちが体を動かして遊ぶことが楽しいと感じられるような環境構成や配慮に努めます。

こうした取組を確実に継続していくことが、からだの力を高めることにつながっていくと考えており、引き続き、運動遊び事業について、重点的に取り組んでいきます。

基本的な生活習慣の確立や定着は、子どもたちの将来にかかわる重要なことであり、家庭との連携が不可欠なものであるという認識の下、家庭に対する啓発や関わりを丁寧に行い、保護者の意識が高まるよう支援していきたいと考えます。

また、子どもたちが、自分のこととして基本的な生活習慣や食育に関心が持てるような工夫にも取り組めます。

園児数が特に少数の場合、英語遊びは4・5歳児で合同実施しています。合同で行うことにより、子どもたちはお互いに刺激を受け、関わり、安心しながら英語に慣れ親しんでくれています。

今後、園児数にかかわらず、必要に応じて、柔軟に実施方法を検討し、実施していきます。

子どもがやってみたいことを自らやる経験を積み重ね、自信を持つことが人と関わる力の基盤となると考えます。

取組1~3を総合的に考え、様々な体験はもちろんのこと、日々の活動の中でも一人一人が経験していることに気づき、認め、関わる力につなげていけるよう、職員の質の向上も含め、継続して取り組んでいきます。

子ども理解を深め信頼関係を築くこと、一人一人の経験も踏まえ、自信となる関わりに取り組むことが大切です。

今後、取組方法を工夫し、一人一人に寄り添った力を育成できるよう実践していくとともに、研修も実施していきます。

豊岡市推薦図書一覧の作成・図書館利用についての家庭配布など、図書館と連携し、図書館の取組が、家庭や園の絵本に親しむ環境づくりに一層つながっていくように支援します。

[基本的方向における総括:教育委員会年度末検証]

幼児期における「あたま、こころ、からだ」の3つの力は、日々の遊びや生活など様々な直接的な経験を通して育まれていく。保育者が、子どもたちがその子なりに人、もの、こと等に関わろうとする姿を丁寧にとらえ受容し、自信や自己肯定感等につながるような関わりが必要であり、そのためにも、保育者の資質向上をめざし、「まなびの公開保育」や「年次別研修」等を継続して行う。本年度完成した『スタンダードカリキュラム～活用の手引き』も有効に活用していきたい。

また、幼児期は家庭との連携を欠かすことができない。信頼関係を築きつつ、保護者と協働できるよう園でのチーム力も上げるよう研修していく。

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2022年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	「生きる力」を育む教育の推進
基本的方向 5	特別支援教育の充実
	一人一人の子どもたちが、特性や発達の段階に応じて能力や可能性を最大限に伸ばし、自立して社会参加するために必要な力を育成することが重要である。 このため、①発達特性の理解と早期からの一貫した支援、②共に学ぶことで豊かな人間性を育む交流及び共同学習等に取り組む。

### 〔指標の検証〕

指標名	2021現状値	2022目標値	2022指標の実現状況
■ 学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合	小 87.7%(-4P) 中 76.8%(-10.1P)	小 88.4% 中 86.1%	小 83.9%(-4.5P) 中 78.1%(-8.0P)○
□ 豊岡市こども支援センターへの支援依頼に対して支援を行った子どもの割合	[2020]100%(±0P)	100%	[2021]100%(±0P)
□ 通常学級(通級指導除く)で個別の指導計画を作成した児童生徒の割合 ※校内委員会で作成が必要である児童生徒数を内数とする	[2020]100%(±0P)	100%	[2021]100%(±0P)
□ 通常学級(通級指導除く)で個別の教育支援計画を作成した児童生徒の割合 ※校内委員会で作成が必要である児童生徒数を内数とする	[2020]100%(±0P)○	100%	[2021]100%(±0P)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ 2022指標の実現状況のうち、( )内は対2022目標差を、○印は2021現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ① 発達特性の理解と早期からの一貫した支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 豊岡市こども支援センターの機能の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 スーパーバイザー支援事業の実施	A	〇〇〇	A	
3 教職員の専門性向上をめざした実践的研修の推進	A	〇〇〇	A	
4 卒業後までを見通した教育的支援・指導の引継ぎの推進	A	〇〇〇	A	
5 特別支援教育支援員の資質向上	A	〇〇〇	A	こども育成課
6 すくすく訪問支援事業の実施	A	〇〇〇	A	
7 就学前から就学後も継続した相談支援の充実	A	〇〇〇	A	
<p>(施策における取組の総括:担当課中間検証)</p> <p>個別の教育支援計画や個別の指導計画、園小連絡シート、小中連絡シート、中高連携シート、サポートファイル等を活用して、学年間、学校間で教育的な支援・指導の引継ぎが行われている。</p> <p>また、特別支援教育コーディネーター等すべての教職員の専門性の向上をめざし、特別支援教育に関する研修、校園長会での説明等を通して、教職員の専門性の向上を図っている。</p>				

施策 ② 共に学ぶことで豊かな人間性を育む交流及び共同学習	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 市内特別支援学級の交流の実施	A	〇〇〇	A	こども教育課
<p>(施策における取組の総括:担当課中間検証)</p> <p>特別支援学級在籍児童生徒の自立をめざし、交流及び共同学習のねらいを明確にし、計画的、組織的に取り組んでいる。</p> <p>他校との交流会については、実施内容・方法・時期等を検討し、コロナ禍でもできる取組を進めていく。</p>				

〔中間外部検証意見〕

〔年度末教育委員会検証〕

施策①-1

こども支援センターには、特別支援や不登校対応等でたくさん関わっていただいている。今後も支援の必要な児童生徒は増えていくだろう。機能の充実を図りながら継続して実施してほしい。

施策①-2

以前中尾先生の指導をいただいたときに、子どもを見ただけで家庭環境まで言及される観察力に圧倒された。得難い人物にスーパーバイザーとして支援していただけることは、貴重な機会である。今後とも継続して実施することを希望する。

施策①-3

園小合同研修の百瀬先生のお話を聞いて、非常に勉強になった。早速、職員に伝達し、授業づくり・学級づくりに生かすことができた。特別支援の視点なしでは、円滑な学校運営は望めない。今後とも継続して実施することを希望する。

施策①-4

校内引継ぎ、校種間引継ぎも、特別支援教育コーディネーターを中心に、スムーズに行われている。今後とも継続して実施することを希望する。

施策①-5

特別支援教育支援員を必要とする学校は多い。なかなか全部に対応することは難しいであろうが、できるだけ増員を図り、子どもに寄り添った教育ができるよう継続して取り組むことを希望する。

施策①-6

個別の支援が必要な園児を早期に発見し、適切な対応について助言を行うことは、園児の成長に大きな意義がある。今後とも継続して実施することを希望する。

施策①-7

保護者の不安に対応することは、子どもの安定した成長につながる。今後とも継続して実施することを希望する。

子育てセンターに来ているお母さんが子どもの発達に不安があり、小学校に上がることに不安を抱いていたが、健康増進課の保健師に話を聞き、こども支援センターからは子どもを見に来てもらった。また、小学校からも見学に来てよと言われ、見学に行かれた。そのお母さんは市の中でいろいろと連携してもらっていることがうれしかったようで、少しでもお母さんの不安が解消されてよかったと思う。市の中で連携されていることはよいことだと感じた。

個別の支援が必要な子どもと不登校の子どもに対し、心理士や指導員が連携しながら関わり方や助言を実施しています。特に、心理士は多角的な検査・見立て・支援ができるよう研修を重ね、スキルアップに努めます。

「支援のいらぬ子どもはひとりもない」の理念に基づき、スーパーバイザー支援事業を実施しています。希望校を募り、必要な時期に適切に、指導助言が受けられるよう継続実施していきます。

特別な支援が必要な子どもたちへの対応に限らず、学級づくりの根幹に係るお話しを伺い、エネルギーをいただいています。今後とも継続して実施します。

個別の指導計画・教育支援計画が必要である児童生徒については、必ず作成し、校内校種間の引継ぎを含め、効果的な活用を図っていきます。

特別支援教育支援員の配置、配置の拡充を希望する学校が多いこと、現在の配置状況が十分でないことを認識しています。引き続き、配置の拡充に向けて取り組んでいきます。

保育者の気付きを大切にされた年度初めの全園訪問において、気にかかる(支援を要する)乳幼児の実態把握を行い、各園の希望に応じて心理士・保健師と訪問を実施してきました。

(30園22人)指導助言をもとに、乳幼児への関わり・保育の充実に努めた結果を記入した「振り返りシート」には、前向きな姿勢・改善が感じられ、乳幼児の健やかな成長に大いに寄与しています。

今後とも専門機関となお一層の連携を図りながら、訪問支援事業を継続実施します。

支援を要する(気にかかる)乳幼児は増加の一途を辿り、特に就学に向けての保護者の不安・心配ははかりしれません。スムーズな就学につながるよう、「ともに」という考えを基本として、常に寄り添い、夏季教育相談・個別教育相談(随時)を実施してきました。昨年度作成した就学支援ガイドブック「わくわくどきどき1年生」は、大変褒められ、相談支援の充実の一助となっています。関係機関とのさらなる連携を図りながら、なお一層の適切な相談支援充実に努めます。



施策①-1~7

就学前、就学後、どの年齢であっても、一人一人に合わせた支援を行っていくことが安心して楽しく通い、生活することに繋がっていくと感じる。そのためには、支援センターの相談機能、支援事業、就学前から就学後の継続した相談支援は、とても大切な取組だと感じるので、継続した取組と更なる充実を望む。

発達検査・相談支援共に、年々増加傾向にあり、相談支援は大変重要な事業であると考えています。  
今後も迅速で適切な支援ができるよう努めます。

施策②-1

感染症対策のため、交流を中止したことはやむを得ない。どんな取組ならできるのかを模索しながら、継続して実施することを希望する。

感染状況で一堂に会する交流が難しい場合でも、中学校区単位で動画・作品交流などを行っていきます。特に、中学校に入学する小学校6年生同士の交流については、可能な方法で実施をお願いします。  
引き続き、市特別支援教育研究会と検討をしながら実施します。

【基本的方向における総括：教育委員会年度末検証】

特別な支援を必要とする子どもの割合は年々増加しており、一人一人の子どもたちが、特性や発達の段階に応じて能力や可能性を最大限に伸ばし、自立して社会参加するために必要な力を育成していくことをめざす。そのために、特別な支援を要する子どもたちの個別の指導計画、教育支援計画を作成し、効果的に活用していくこと、特別支援教育支援員や通級指導教室の拡充を進めることにより、一人一人の子どもに適した連続性と一貫性のある教育を進めていく。

また、子どもたちの実態を精緻に把握し、学習面・行動面の配慮といった一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行っていく。

今後さらに各関係機関の連携を強化し、特別支援教育の取組を充実させていく。

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2022年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 1	教職員の資質・能力の向上
	<p>教職員は、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的知識・実践的指導力等、必要な資質・能力を高めるため、体系的な研修を行うことが重要である。また、増加、多様化する職務の中で、勤務時間の適正化を図り、限られた時間の中でワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方改革を行うことが重要である。</p> <p>このため、①教職員の資質と実践的指導力の向上、②ワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方改革等に取り組む。</p>

### [指標の検証]

指標名	2021現状値	2022目標値	2022指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う児童生徒の割合	小 95.5%(+2.4P)○ 中 93.4%(+5.7P)○	小 2021現状値以上 中 2021現状値以上	小 91.9%(-3.6P) 中 90.7%(-2.7P)
<input type="checkbox"/> 授業中に学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるために、コンピューターや提示装置を活用して資料などを効果的に提示できる教職員の割合	小[2020]90.9%(-1.2P)○ 89.6%(-2.5P) 中[2020]89.4%(-1.0P)○ 82.8%(-7.6P)	小 92.1% 中 90.4%	小[2021]89.5% (-2.6P) 中[2021]71.6%(-18.8P)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ 2022指標の実現状況のうち、( )内は対2022目標差を、○印は2021現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ① 教職員の資質と実践的指導力の向上	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 授業づくりと学級づくりの一体化の質的向上	A	○○○	A	こども教育課
2 教員の指導力の向上を図る校内研修等の推進	A	○○○	A	
3 校内研修担当者研修の充実	A	○○○	A	
4 初任者等、若手教職員の研修の充実	A	○○○	A	
5 豊岡市中学校教育研究会・教科部会の充実	A	○○○	A	
6 子ども及び教職員のICT活用指導力の向上	A	○○○	A	
7 就学前の教育・保育計画「第2次スタンダード・カリキュラム」及び「手引き」を活用した就学前教育の充実	A	○○○	A	こども育成課

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

教職員は、コロナ禍においても、校内研修を中心に、研究者による講義や同僚の実践から学びながら知識・技能を蓄積し、そこで得た知識や技能を使って自ら実践し、実践を振り返りながら経験を蓄積し、力量を高めている。目の前の子どもたちの課題解決と授業改善のため、地道な取組が続いている。オンライン研修と対面式研修の良さを取り入れ、一人一人の専門家としての確かな力量を高めるとともに、学校の持つ「研究推進力」がさらに発揮されるよう様々な形で関与していく。

施策 ② ワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方改革	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 「学校における働き方改革」の推進	B	○○○	B	こども教育課

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

定時退勤日、ノー会議デー・ノー部活デー等、各校における業務改善の取組により、教職員の意識改革が進んでいる。豊岡市「学校における働き方改革」推進方針に則り、現在の取組に加え、各校の個別の課題に応じた取組を行うことで「学校における働き方改革」を一層推進していく。

あわせて、スクールサポートスタッフ、部活動指導員を活用し、業務を分担することで業務軽減を図る。

施策①-1

3年ぶりに実施した授業づくり学級づくり研修会は、多くの教員にとって貴重な学びの機会となった。今後とも継続して実施することを希望する。

施策①-2

各校の教育課題に対応する研修において専門家講師を招聘する予算を確保していただけることはありがたい。

外部講師を招聘しての校内研修は教職員にとって貴重な学びの機会となっている。今後とも継続して実施することを希望する。

施策①-3

各校の研修リーダーが情報交換することによってヒントを得たり、自覚を高める機会はこれからも大切にしていきたい。

勝見先生の講義を拝聴し、非常に勉強になった。発表だけではなく、話し合いができる授業づくりに向けて、貴重な示唆をいただいた。今後とも継続して実施することを希望する。

施策①-4

初任者や若手教員の負担にならない配慮の中、若手教員同士が様々な情報交換する場を設定していただきたい。特に初任で単身住まいを余儀なくされている他地区から赴任することになった教員の仲間づくりにもつながる。

「同じ立場の教師が近くにいないので、悩みを共有できるのはすごくありがたい」という参加者の感想は、この施策が有効であったことを意味している。今後とも継続して実施することを希望する。

施策①-5

中学校でも小規模校が多く、実技教科を中心に校内で1人しか教科担当がない実態があり、相談ができにくい状況がある。そんな中で、この教科部会は研修の深まりや情報交換、仲間づくりの絶好の機会となっている。

校内に同じ教科の教員がいない小規模校の中学校教員にとっては、貴重な学びの場となっている。今後とも継続して実施することを希望する。

施策①-6

1人1台配布されたタブレットの有効活用のために、絶対に知識や操作技術を深めていかねばならない分野である。教科ごとに、有効なアプリを教えていただいたり、優れた実践を各校に紹介したりしていただきたい。

昨年度から一人一台タブレットが支給されており、ICT活用指導力の向上は急務である。今後とも継続して実施することを希望する。

施策①-7

研修会の参加者から非常によい感想が出されている。この取組が効果的に行われている証拠である。今後とも継続して実施することを希望する。

今後も小学校長会と連携しながら実施していきます。

今後も予算を確保し、継続し実施していきます。

参加者のニーズに応じた研修内容、参加形態等を吟味し、継続実施していきます。

同じような立場の教職員が、不安や悩み等も共有しながら対面で研修することの意味は大きいと考えます。県教委が主催する研修会と時期や内容が重ならないよう配慮しながら実施していきます。

同じような立場の教職員が、不安や悩み等も共有しながら対面で研修することの意味は大きいと考えます。芸術文化観光専門職大学との連携も図りながら、中学校の先生たちの授業力の向上の取組を支援します。

市情報教育研修会で優れた実践を紹介したり、校内でICT支援員を活用した操作研修をしたりするなど、教職員のICT活用指導力向上に向けて、効果的な研修を進めています。

研修会の中で、今年度作成の「スタンダード・カリキュラム」活用の手引きを有効活用しながら、公開保育等を通して、語り合い、学びを深め合う研修会になるよう継続し実施します。

#### 施策②-1

各校では「働き方改革」「業務改善」の意識は高まってきているが、不登校をはじめとした生徒対応、保護者対応等があり、なかなか実質が伴っていない。

1日にかなり届くメールへの対応をはじめ、アンケートや各種調査等の対応に追われる日々である。できる限り精選していただきたい。

導入していただいた校務支援システムは有効活用されている。より業務改善につながるよう改良を加えていただくようお願いしたい。

留守番電話機導入モデル校となり、今年度から試行しているが、かなり有効である。全校に広めることをお願いしたい。

スクールサポートスタッフ導入校から新型コロナウイルス感染症対策のための消毒作業等、かなり有用だと聞いている。是非とも全校に採用いただきたい。

教職員の意識改革は進んできている。部活動の地域移行等の課題解決を着実に進め、教職員が元気に子どもの前に立てる体制づくりを推進するよう希望する。

園においても、職員がしなければならない業務、そうでない業務についての精選もできるようになってきており、意識改革ができつつある。

学校における働き方改革は急務だと考える。色々な取組をしている点は良いと思うが、さらに一歩進めて、学校ですべき(できる)ことは何か、地域ですべき(できる)ことは何か、家庭ですべき(できる)ことは何か、を明確にして、改革を進めてほしいと思う。このとき、学校運営協議会の熟議機能が有効と考えるので、学校運営協議会の拡充とともにあわせて議論を進めても良いと考える。

豊岡市「学校における働き方改革」推進方針を踏まえ、市、学校、家庭・地域等を含めたすべての関係者がそれぞれの立場から、学校における働き方改革に取り組んでおり、現在の取組を継続するとともに、各校の個別の課題に応じた取組の改善を図り、一層推進していきます。

#### 〔基本的方向における総括:教育委員会検証〕

教職員には、多様化する職務の中で、勤務時間の適正化を図り、限られた時間の中でワーク・ライフ・バランスに配慮しながら必要な資質・能力を高めることが求められている。

Withコロナにおいて、今年度は少しずつ研修の機会を元の状態に戻してきた。単にこれまでの形に戻すのではなく、教職員のニーズや研修内容を踏まえ、オンラインでできることはオンラインで、意見交流や情報共有が必要なことは対面で、より多くの方に受けていただきたい内容については、対面とオンラインを合わせたハイブリッド型またはオンデマンドで配信し研修を実施してきた。参加者からは「授業研究を通して同じ学年を担当する教員が集まって直接学び合う機会は貴重である」「研修内容をオンラインやオンデマンドでも見ることができ、校内研修でも活用している」などの声が聞かれた。

来年度も、研修内容や教職員からのニーズを吟味し、教職員にとって学びの多い研修会を企画・運営していく。

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2022年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 2	学校園の組織力の強化
	新しい時代に求められる資質・能力を育む教育課程の実現やいじめや不登校等に適切に対応するためには、教職員一人一人の力を組織的かつ機動的に生かしていく協働体制を確立することが重要である。 このため、①教職員一人一人の力を組織的かつ機動的に生かす協働体制の確立、②いじめや不登校等への対応等に取り組む。

### 〔指標の検証〕

指標名	2021現状値	2022目標値	2022指標の実現状況
■ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合	小 97.5%(-2.5P) 中 95.8%(-4.2P)	小 100% 中 100%	小 97.7%(-2.3P)○ 中 97.1%(-2.9P)○
□ 不登校児童生徒の割合	小[2020]0.58%(-0.18P) 【2020全国出現率1.01%】 中[2020]4.07%(-0.38P) 【2020全国出現率4.30%】	小 2021現状値以下 中 2021現状値以下	小[2021]0.74%(-0.16P) 【2021全国出現率1.32%】 中[2021]4.45%(-0.38P) 【2021全国出現率5.26%】

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ 2022指標の実現状況のうち、( )内は対2022目標差を、○印は2021現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)			

〔施策と取組の自己検証〕

施策① 教職員一人一人の力を組織的かつ機動的に生かす協働体制の確立	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 管理職研修の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 学校教育経営研修の充実	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
豊岡市の教育施策の推進と充実、学校教育を取り巻く今日的課題への対応には、管理職の資質、能力の向上が欠かせない。そのことは、各校の校内研修の充実に直結すると同時に、教職員の育成にも大きな影響を及ぼしている。  
非認知能力向上事業をはじめ、市教委として重要な施策の推進、今日的課題への対応について、今後も管理職研修等により図っていく。

施策② いじめや不登校等への対応	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 いじめの未然防止、早期発見・早期対応の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 小・中学校と関係機関との生徒指導に係る情報交換の推進	A	〇〇〇	A	
3 不登校対策の充実	C	〇〇〇	C	
4 相談支援事業の実施	A	〇〇〇	A	
5 「子どもの心を理解する強化月間」の充実	A	〇〇〇	A	
6 「アセス」を活用した生徒指導の充実	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
「新型コロナウイルス感染症の影響に関する心のケアのためのアンケート調査(5月実施)」では、ストレスを抱える児童生徒が一定程度存在していることが分かった。各学校では調査結果を基に、児童生徒の心と体の状態を把握しながら心のケアに努めている。今後も、引き続き全職員が一丸となり、相談しやすい学校環境づくりの推進に努めていく。  
また、各校や小中一貫各ブロックにおける取組を振り返り、取組内容の充実に努めていく。さらに、各校不登校担当者等の研修会を開催し、各校の実践交流と効果的な対応策等についての協議を行い、各学校に発信・啓発していく。

施策①-1

Webでの研修となったが、非認知能力について理解を深めることができた。

今後も、学校経営にあたっての今日的な課題や時代や社会からのニーズの高いテーマをもとにした研修をお願いしたい。

施策①-2

昨年度、この研修について改善を求めたところ、今年度から、管理職試験受験希望者のみならず、女性を含め、中堅教員が出席しやすいシステムとなり、各校のミドルリーダーが参加することができた。参加者は「勉強になった」と満足していた。今後とも、幅広く参加者を募り、活発に意見交流や討論させ、リーダーとしての自覚を高める研修にしていきたいと思います。

施策②-1

いじめアンケートの定期的な実施は定着している。いじめの積極的な認知に効果を上げている。各校で教育相談も効果的に行われている。

施策②-2

定期的に警察をはじめとした関係機関との情報交換会が実施されており、市全体の生徒指導の状況が把握できることはありがたい。SNSの使用により、問題行動が教師や保護者が気づかないうちに、広域化、重大化する懸念があり、ますますこの情報交換の必要性は高まっていくことが予想される。

施策②-3

不登校に係る引継ぎ連携システムは大切である。不登校については豊岡市の大きな教育課題として捉えられており、ますます小中の連携は重要になってくる。

施策②-4

こども支援センターは学校の大きな支えとなっている。不登校傾向にある児童生徒の安心基地の役割であったり、悩みを抱える保護者のカウンセリング機能も果たしたりしている。支援センターからの情報提供や、学校側からの相談にも適切に対応くださり、ありがたく思っている。

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、多文化共生サポーターは「チーム学校」の重要な一員となっている。

施策②-5

年間を通して、各教職員は子どもたちの心を理解するために工夫を重ねているところであるが、このように年に3回、強化月間を設けることで、より意識的に子どもに寄り添う姿勢を教職員が持つ機会となっている。

今後も今日的な課題や社会でのニーズの高いテーマを選び、研修を充実していきます。

ミドルリーダーの育成は本市における課題です。女性を含め、中堅教員が出席しやすい体制、内容を吟味し、意見交流を通して、リーダーとしての自覚を高める研修に取り組んでいきます。

これからも各取組を通して、いじめの早期発見・早期対応に努めるとともに、子どもと教員の信頼関係を築き、子どもの心の安定に努めます。

引き続き、学校、関係機関との情報交換を密にし、生徒指導の充実を図ります。SNS関係についても、必要に応じて、子どもへの講話や保護者への啓発等を進めていきます。

小中連絡シートの活用や中学校区ネットワーク会議等により、小中の情報共有と綿密な引継ぎに努めます。

こども支援センターは、来年度から教育委員会ではなく、市長部局のこども未来部に属することになりますが、引き続き、学校との連携を密に図り、こども・保護者・学校をしっかりと支援していきます。

子どもたちの課題については、学校だけではなく、引き続き、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関等との連携を図りながら対応していきます。

子どもたちの欠席が多くなる月を強化月間とし、教職員が意識して、より丁寧な寄り添いに努めており、子どもたちが抱える不安の緩和につながっています。

これからもアンケートや教育相談等、取組の充実を図ります。



施策②-6

担任を中心に教職員は子どもの心を把握するために努力している。ただし、どうしても教職員の主観が入りすぎる傾向があり、客観的に学校満足度等を分析することができるアセスのような調査は必要である。アセス結果をもとに、各校では気になる児童生徒について個別に支援策を練り、対応に生かしている。

各学校で年2回以上行っているアセスをはじめ、心のケアアンケート調査等を継続し、あらゆる角度から子どもの心を把握し、安心した学校生活を送れるように努めます。

〔基本的方向における総括：教育委員会検証〕

子どもの状況の変化や、社会や保護者からの要請に対応するため、組織力を向上させ、教職員が一丸となって迅速、かつ的確に対応する体制の強化を図ってきた。教職員には、教育の専門家として子どもたちに寄り添い、一人ひとりの個性や能力・可能性を伸ばし育てるとともに、さまざまな教育課題に適切に対応できるよう研修の充実を図った。

今年度の市教育フォーラムでは、非認知能力を高めるためには、日々の授業や行事、家庭等で、「褒めて」「認めて」「一緒に喜ぶ」関わりの必要性を共通認識した。

「子どもの事実」に学び、子どもに寄り添う教育の一層の充実に向け、市教職員全体の資質向上を図っていきたい。

## 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画) 2022年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 3	安全・安心な教育環境の整備・充実
	子どもたちが安心して学校園生活を送るためには、安全で質の高い教育環境の整備を図ることが重要である。 このため、①学校園及び給食センターの安全対策やICT環境等の教育環境の整備・充実、②様々な困難や課題を抱える子どもたちに対する就学支援等に取り組む。

### 〔指標の検証〕

指標名	2021現状値	2022目標値	2022指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 小学校屋内運動場・武道場非構造部材等落下防止対策の実施率	87.0%(±0P)○ 【20校/23校】	100% 【23校/23校】	100% 【23校/23校】
<input type="checkbox"/> 学校給食において地場産物(市内産の野菜)を使用する割合	34.4%(-1.9P)○	36.3%	34.5%(-1.8P)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ 2022指標の実現状況のうち、( )内は対2022目標差を、○印は2021現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課) 検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ① 学校園及び給食センターの安全対策やICT環境等の教育環境の整備・充実	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 学校園施設等の定期的な安全点検及び整備	A	〇〇〇	A	教育総務課
2 非構造部材等落下防止対策の推進	A	〇〇〇	A	
3 ICT環境の整備	B	〇〇〇	B	
4 地産地消の推進と安全・安心な学校給食の提供	A	〇〇〇	A	
5 通学(園)路の安全点検及び関係機関・保護者・地域との連携強化	A	〇〇〇	A	こども教育課
6 通学(園)手段の確保	A	〇〇〇	A	
7 安全・安心な学校生活に向けた新型コロナウイルス感染症への対策	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
 施設の不具合に対して、緊急度の高いものから順次対処してきた。それ以外のものについては、経過年数、劣化状況等を判断し、計画的な改修に努めてきた。ICT環境整備については、端末については整備計画に基づき定期的な更新を実施している。ネットワーク環境の改善や備品整備については、学校からの要望を踏まえ、順次改善を図っていききたい。  
 また、通学について、原則、小学生は3km以上、中学生は6km以上の通学距離で公共交通(バス・列車)通学となる。バス・列車の定期券を配布し、路線バスのない地域ではスクールバスを運行するなどし、通学に伴う負担は軽減されている。  
 新型コロナウイルス感染防止のために、各学校が購入する消毒液等消耗品等が入手困難とならないよう予算確保に努める。

施策 ② 様々な困難や課題を抱える子どもたちに対する就学支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 就学援助費の支給	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 特別支援教育就学奨励費の支給	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
 就学援助については、経済的な理由により、児童生徒の小中学校への就学が困難な家庭に対し、学用品費・給食費・修学旅行費などの一部を援助している。また、次年度の申請受付は入学前から行っており、認定となった新1年生の保護者に新入学児童生徒学用品費を入学前に支給することで、保護者の経済的負担の軽減につながっていると考えます。  
 特別支援教育就学奨励費については、特別支援学級に在籍する児童・生徒の保護者に対し、保護者の就学にかかる経済的負担を軽減するため、就学に必要な経費の一部を補助している。  
 今後も経済的に援助を必要とする児童生徒の保護者の負担を軽減するため、継続した就学支援が必要である。

〔中間外部検証意見〕

〔年度末教育委員会検証〕

施策①-1

教育環境の整備については、子どもたちが安心安全な環境で学習できるように迅速な対応をしていただいている。引き続き、計画的な修繕等をお願いしたい。

日ごろから学校関係者や業者による定期点検の実施により、不具合等を早期に発見し安全で快適な環境の実現に努めます。今後も安全で質の高い教育環境の整備を図っていきます。

施策①-2

非構造部材等落下防止対策については、計画的に整備が行われている。今後も点検と整備に努めていただきたい。

非構造部材等落下防止対策については、今年度で対象校すべての整備を完了しました。

施策①-3

ICT環境の整備とあわせ、情報モラルへの十分な対策の必要性を感じる。

全ての学校でICTの活用に必要な教材が整備されることを望む。

ICT環境の整備、とくにネットワーク環境の整備は、これからの時代の学びに欠かせないので、拡充を急いでもらえればと考える。

ネットワーク環境については、中～大規模校についてインターネット接続環境の改善を実施しています。

また、Wi-Fi環境が未整備な特別教室は2023年度に整備し、また特別支援学級の新設については、学校の要望を踏まえ、順次改善を図っていきます。

施策①-4

衛生管理やアレルギー対応など、委託業者としっかり連携し、安心安全な学校給食の提供に努めていただいている。地元産野菜の使用は様々な理由で困難なこともある中、地産地消の推進に努めていただいている。

JA等を通じて、市内生産者との連携を取れるよう取組を進めます。

施策①-5

保護者や地域の安全ボランティアによる見守り活動や「子どもを守る110番の家」は大きな役割があると思う。また、日頃の防犯訓練も必要だと思う。今後も関係機関と連携し、引き続き十分な取組をお願いしたい。

今後も、警察や保護者、地域のボランティアとの連携を図りながら、安全な通学環境の確保・整備に努めます。

児童への防犯ブザーの無償配布によって、児童の防犯意識の向上につながっているので大変ありがたい。

最近、盗撮事案が多いが、こうしたことには地域住民の目が抑止効果になる。登下校については、危険個所への対応と地域の協力を得て、見守り活動の継続を期待する。

施策①-6

学校統合による通学方法についても、負担軽減に努めていただいている。引き続き、通学通園手段の確保をお願いしたい。

学校統合により遠距離通学者となった場合は、一定の基準のもと、バス通学の導入など負担軽減に努めます。

施策②-1-2

就学援助費や特別支援教育就学奨励費については、実態に即した支給に努められている。今後も引き続きの対応を希望する。

今後も引き続き、保護者の負担軽減のため、取組を継続実施してまいります。

〔基本的方向における総括:教育委員会検証〕

非構造部材等落下防止対策については、計画どおり、今年度で対象校すべての整備を完了した。ICT環境においては、今後は端末活用に必要なネットワークや人的支援等の環境整備の方策を検討・試行していく。

# 第4次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

## 2022年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 4	家庭と地域による学校と連携した教育の推進
	<p>家庭は、すべての教育の出発点であり、家族の触れ合いの時間を確保し、基本的なしつけを通して、人間関係の基礎を形成し道徳性の芽生えを培うことや、食生活や睡眠を含めた規則正しい生活習慣を身に付けさせることが重要である。加えて、子どもたちが地域の中で、体験的な学びと交流によって豊かな成長がかなえられるよう、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりや学校からの積極的な情報発信を踏まえた学校園・家庭・地域との緊密な連携が重要である。</p> <p>このため、①家庭における子どもが伸びる習慣づくり、②親としての学びへの支援、③関係機関の連携による子育て支援、④地域全体で子どもを育てる環境づくり等に取り組む。</p>

### [指標の検証]

指標名	2021現状値	2022目標値	2022指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 子育て講座の実施回数	23回(-7回)○ [2022.1.1現在]	30回	21回(-9回) [2022.12.1現在]
<input checked="" type="checkbox"/> 今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小 86.1%(-6.8P) 中 75.2%(-1.9P)○	小2021現状値以上 中2021現状値以上	小 84.1%(-2.0P) 中 65.5%(-9.7P)
<input type="checkbox"/> PTCAあいさつ強化月間の取組参加者数	5月 9,428人(+6,015人)○	2021現状値以上	5月 7,364人(-2,064人)
<input type="checkbox"/> 保育園・認定こども園待機児童数	7人(-7人)○ [2021.10.1現在]	0人	3人(-3人)○ [2022.10.1現在]
<input type="checkbox"/> 放課後児童クラブ待機児童数	2人(-2人) [2021.10.1現在]	0人	0人(0人)○ [2022.10.1現在]

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ 2022指標の実現状況のうち、( )内は対2022目標差を、○印は2021現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了。(目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証	○ 妥当
	A 継続実施。(拡充・現行方法による継続実施)	(担当課評価の 妥当性)	△ 疑義あり
	B 改善実施。(取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し。(取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
D 取組廃止。(効果・必要性等から取組を廃止)			

〔施策と取組の自己検証〕

施策① 家庭における子どもが伸びる習慣づくり	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 「すくすくメッセージ」等を活用した「規則正しい生活リズム」の定着	A	〇〇〇	A	こども育成課
2 「運動遊びパンフレット」等による家庭や地域での運動遊び・外遊びの促進	A	〇〇〇	A	
3 家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立	A	〇〇〇	A	こども教育課
4 ブックスタートの推進	A	〇〇〇	A	生涯学習課

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
「すくすくメッセージ」、「運動遊びパンフレット」等を配布し、乳幼児期における生活リズムの定着や健やかな体づくりの啓発を図っている。また、「非認知能力」に焦点を当てた「はばたきメッセージ」等を活用し、家庭での基本的な生活習慣の定着を図っている。今後も引き続き、これらの取組を進める。

施策② 親としての学びへの支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 PTA活動の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 子育て家庭を対象とした子育て講座の実施	A	〇〇〇	A	こども育成課
3 親子が交流できる機会の支援	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
豊岡市PTA連合会として、保護者が自ら学び、情報を共有するための機会を今後も継続して支援する。また、事業の見直し等を行い、さらに豊岡市全体のPTA活動の充実を図っていく。

施策③ 関係機関の連携による子育て支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 子育てに関する相談の充実	B	〇〇△	A	こども育成課
2 学校園と家庭児童相談室・こども家庭センターなどの関係機関との連携	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
こども支援センターが調整機関となり、学校園、健康増進課等の関係機関と情報共有し、特にリスクが高く、支援が必要な家庭について連携を図りながら、役割分担し、適切な助言・指導を行っている。家庭環境の多様化に伴うさまざまな子どもに関する相談に対応するため、相談対応職員のアセスメント能力の向上を図るとともに、児童虐待など子どもの安全確保を図る必要がある場合は、県こども家庭センター、警察署、病院と迅速に情報共有し対応する。

施策④ 地域全体で子どもを育てる環境づくり	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 安全ボランティアによる見守り活動の継続及び活動支援	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 学校・家庭・地域の連携強化	A	〇〇〇	A	
3 「地域とともにある学校」づくりの推進	A	〇〇〇	A	こども育成課
4 仕事と子育ての両立支援	A	〇〇〇	A	
5 子どもと心でつながる市民運動の推進	A	〇〇〇	A	生涯学習課
6 図書ボランティア活動の促進	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)  
安全ボランティアの高齢化や人材確保が難しいなど、子どもの見守り活動についての課題が顕著になりつつある。地域の実態に応じて、「子どもを見守り、育てる環境づくり」を支援していかなければならない。コミュニティ・スクール(学校運営協議会)モデル校での取組等の検証や取組拡充を検討しながら、地域との協働による課題解決を図っていく。

施策①

睡眠や食事が子どもの成長にどれだけ大切かを保護者に伝え、正しい生活リズムを定着させたうえで、子どもの成長に合わせて運動遊びや家庭・地域で親子の交流を行う取組や、園・小・中学校と成長に合わせて、家庭学習や読書の習慣化や非認知能力の向上の取組として行われており、良いと思う。

食生活や睡眠を含めた規則正しい生活習慣を身に付けさせることが重要であり、また地域の中で、体験的な学びと交流によって子どもたちの豊かな成長がかなえられるよう、引き続き、地域ぐるみでの子どもを育てる体制づくり、学校園・家庭・地域との緊密な連携を図っていきます。

施策①-1

ネット社会ということもあり、子育てに関する情報等、さまざま情報が溢れている。しかし、「すくすくメッセージ」などの冊子は、初めて子どもを持つ親にとってとても参考になる冊子であると感じる。

また、「なかよし広場」は、専門家によるミニ講話がある。健診で聞けなかった事(時間が経って悩みも変化する)が個人的に聞くことができたり、対象でないきょうだいについても聞くことができたりするのでありがたいという話を聞いた。

今後も継続を希望する。

「すくすくメッセージ」などの冊子は、4か月健診等に配布し、親になられる方へ子育てに関する情報提供を実施しています。

「なかよし広場」は、子育てセンターの中でも好評な事業であり、今後も引き続き、保健師等の専門職と連携を図り、実施していきます。

施策①-2

運動遊びは、家庭での遊び方の参考になっているようである。在宅親子から園、小学校と継続して行われていることは良いことだと思う。今後も継続を希望する。

各子育てセンターにおいて、特に「ふれあう」「ほめる」「笑顔」をキーワードにした親子ふれあい運動遊びを実施しています。

家庭だけでなく、園・小でも共通のキーワードであり、引き続き、実践に取り組んでいきます。

施策①-4

各子育てセンターで図書館より「絵本の読み聞かせ」をしている。そのなかでブックスタートでいただいた絵本をよく見ているという声を聞く。今後も継続を希望する。

ブックスタートでは、絵本2冊をプレゼントしています。絵本を介することで親子の触れ合いがより楽しいものとなるよう、引き続き実施していきます。

施策②

妊娠し出産と同時に始まる子育てに対し、適切な時期に子育て講座を実施することにより、保護者の不安を解消してあげることがとても良いと思う。

子どもが就学し保護者もPTA活動へ参加するにあたり、保護者に対しての研修会や、単位PTA相互の交流会、情報交換会を行い、PTA活動の活性化にも繋がっていることはとても良いと思う。

子育て講座については、多様な子育て家庭のニーズに対応できるよう、内容を検討し実施していきます。

また、PTA活動については、今後も家庭、学校、地域が互いに連携し、学びの機会として事業を実施していきます。

施策②-3

「おでかけ広場」「そとあそび広場」については、住んでいる地域で遊べるということで気楽に遊びに行くことができる。また、行ったことがない場所に行くことにより「こんな所があったんだ」「こんな遊びができるんだ」と遊びの幅が広がるきっかけとなっている。その場所にセンタースタッフがいてくれるから安心という声も聞く。今後も継続を希望する。

「おでかけ広場」は、保護者が気軽に集い、交流や情報交換できる場を提供し、引きこもりがちな親子が外に出るきっかけとなるよう、継続し実施します。

「そとあそび広場」は、子育て中の保護者が交流や情報交換をする機会や親子で戸外での遊びを共有し、興味や関心を広げられるよう努めます。

施策③

事件報道で耳にする機会も増えてきて、まさか豊岡でと思っていたが、豊岡でも相談件数が思ったより多く驚いた。

関係機関との連携で、学校園から虐待の通告があった場合とのことだが、報道で見聞きするのは手遅れだったり、関係機関同士の認識の違いによる手遅れが多すぎるように思うため、報告を受けてではなく、月に1~2回という感じで相談員等が学校園に訪問またはオンラインでの聞き取りや情報交換等を行うことがよいのでは。

要保護児童対策協議会の対象家庭については、支援方針に従って、定期的に学校園等との情報交換を行っています。

今後も、虐待に関する知識を深めるための研修機会を設けるとともに、緊急時に備えて関係機関との連携を密にするよう努めます。

施策③-1

アイティ4階の保健師による相談窓口など、相談のできる場所(気軽に行ける)が増えることは子育て中の保護者にとってありがたいことであると思う。今後も継続を希望する。

施策④

見守り活動も高齢化の問題もあると思うが、なにも児童と一緒に歩くことだけが見守りではなく、自宅の窓から見てもらう、自宅前や玄関先で見てもらうなど、その人それぞれの方法で行ってもらうのも見守りになると思う。

また、見守り参加のハードルを下げることにより、高齢者の引き籠もり抑止にもなると思う。

施策④-4

9月1日時点の待機児童数は2人で依然解消していない。2021年2月策定の「豊岡市における幼児教育、保育及び放課後児童の在り方計画」で施設整備を推進し受け入れ枠の拡大とあるが、市への魅力も薄れ移住者減少、現住者流出の原因の一つとなるおそれもあるため、もっとスピード感のある対応をしてほしい。

ファミサポは、転勤族や郷が遠く、近くに知り合いや頼れる人がいない保護者にとってとてもありがたいシステムだと感じる。内容をよく知らない保護者もいるため、子育てセンターからも伝え、さらにファミサポを浸透していければよいと思う。今後も継続を希望する。

支援者の乏しい家庭や養育能力に課題のある家庭も多くあります。アイティに子育ての相談窓口が集約されたため、連携を強化しながら子育て中の保護者を支援します。

今後も、安全ボランティアの高齢化や地域の実態に応じた「子どもを見守り、育てる環境づくり」に努めます。

近年、保育ニーズが増加している一方で、少子化も同時に進行しています。今後も、少子化の進行が見込まれるため、施設整備については、これらの状況を踏まえながら総合的に判断していきます。

2023年1月末時点でのファミサポ会員数は、328人で、会員数は順調に伸びています。

子育て支援にかかる重要な取組の一つとして、引き続き、事業周知に努めます。

〔基本的方向における総括:年度末教育委員会検証〕

子どもたちの豊かな成長がかなえられるよう、地域の中で体験的な学びと交流によって、地域ぐるみでの子どもを育てる体制づくり、学校園・家庭・地域との緊密な連携を図る。

また、「地域とともにある学校」づくりの推進のため、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)と地域学校協働活動を一体的に推進していく。



## IV 外部有識者の総評

## 1 2022年度教育委員会活動について

### (1) 総括意見

教育委員会の点検・評価は効果的な教育行政を推進するため、また市民に対する説明責任を果たすために行われる。このため、この点検・評価にもとづいて今後の教育行政施策の改善や見直し、教育環境の整備や充実に努めることが求められる。

2022年度の教育委員会活動について、教育委員会会議の定例会が12回、臨時会が2回の計14回開催され60件の議案審議および41件の報告・協議がなされた。審議案件と報告案件の一覧とを概観したところ、とくに問題は見受けられない。

教育委員会会議以外の活動状況について、市長と教育委員会とで構成する総合教育会議が計2回開催されている。また、教育施策の内容について市民から理解を得ること、および市民の声を教育行政に反映することを目的とした教育懇談会を実施している。2022年度は「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画」で最優先の検討が必要とされている八代小学校区と寺坂小学校区を対象に説明会・意見交換会を開催した。八代小学校区については、小規模特認校制度の導入に際して、「小規模特認校に期待すること。気になること」と題したワークショップを実施した。寺坂小学校区においては、他校との統廃合に関する説明を行った。くわえて豊岡市では、年に3回「豊岡きょういく」を発行している。これら取組は高く評価できるものであり、今後とも地域最適の教育を目指すためにも、市民との対話や情報公開を通じた開かれた教育行政の推進を願う。

豊岡市では2020年2月に「第4次とよおか教育プラン」を策定し、それにもとづいた「2022年度実践計画」を2022年3月に策定している。今後は「第4次とよおか教育プラン」にもとづく教育施策を年度ごとの実践計画において、着実に進めることが肝要である。と同時に、年度ごとの点検・評価結果にもとづく成果検証によって、柔軟かつ適切な改善を繰り返しながら、「第4次とよおか教育プラン」の達成に向けて、より効果的な教育施策を推進することが求められる。

### (2) 豊岡市の教育に求められるもの

豊岡市では、非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）の育成を掲げている。これは、2017年に改訂された学習指導要領で強調された育成を目指す資質・能力のうち「学びに向かう力・人間性等」と通底するものであり、これからの時代を生きる子どもたちに欠かせない力である。2022年度からは全市において小学校1年生へと取組が拡充されている。今後も様々な活動を通して育成されることを強く願う。

このような力を育成するためには、義務教育9か年で子どもを育てる、という考え方が求められる。豊岡市は県下においても、早期から「豊岡こうのとりプラン」による小中一貫教育に取り組んできた。小中一貫教育は小中学校教育それぞれの強みを相

乗効果として高めるもので、義務教育の質向上に益する取組である。竹野地域において施設一体型小中一貫校の開設準備委員会が2023年2月に設置された。他地域事例の成功要因を研究しながら、竹野地域に適した小中一貫教育の構想が求められる。あわせて、市内他地区の小中一貫教育にとっての最適な方策を導出すべく、成果検証を進めて欲しい。

くわえて、子どもの学びや育ちは学校だけで達成されるものではない。家庭や地域との連携が今後ますます重要となる。地域とともにある学校とするための「コミュニティ・スクール」がモデル校である弘道小学校と竹野中学校の2校ですでに開始されている。2023年には、計9校にまで拡大される。2017年改訂の学習指導要領で謳われる「社会に開かれた教育課程」の実現に「コミュニティ・スクール」は大きく資する取組である。豊岡らしい地域とともにある学校づくりのためにも、これらモデル校の成果検証を進め、他校での取組の参考となるように、教育委員会による継続的な取組の検証と支援が望まれる。

## 2 2022年度教育施策の取組について

### (1) 成果があった取組について

『「あたまの力」の育成』について、2022指標の実現状況に鑑みれば、目標値には到達がかなわなかったものが見受けられるが、2021現状値と比較して改善した指標もあることから、取組が一定効果的であったと言えるだろう。とくに「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う児童生徒の割合」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う児童生徒の割合」については、一部を除いて目標値に及ばなかったけれども、2021年度と比較して改善されている。児童生徒が、自ら考えることができる、話し合いを通して、自分の考えを深め広げたりすることができる、と実感しているので、彼らが主体的に学ぶことができていると解することができる。「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の兆しと言える。今後とも充実に努めて欲しい。

『「こころの力」の育成』に関しては、2022指標の実現状況において、とりわけ「自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると思う児童生徒の割合」が、中学生において前年度と比較して良好な状況にある。これらは豊岡市が育成を目指す非認知能力の一つであり、また学習を進めるうえで、基盤となる力でもある。また「学級みんなで話し合っただけのことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある児童生徒の割合」については、一部目標を達成し、また2021現状値よりも改善している。「あたまの力」でも述べた対話型の学びの成果と見ることもできる。今後ともこうした取組が継続されることに期待したい。

『「からだの力」の育成』は、2022指標の実現状況を見るに、「新体力テストにおける小学校5年生と中学校2年生の体力合計点のT得点」について、小学校は僅差で

目標値に及ばなかったものの、中学校は 2022 目標値を達成し、また 2021 現状値よりも改善している。体力の向上は、健康的な生活の基盤となる。今後も様々な取組を通して、「からだの力」の育成を進めて欲しい。

「学校園の組織力の強化」について、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合」が 2022 目標値には及ばなかったものの、2021 現状値と比較して改善されており、よい傾向と言える。今後も児童生徒に対する指導を充実しつつ、いじめの根絶に向けて、早期発見・早期対応のより一層の充実が図られることを期待する。

## (2) 改善や見直しが必要な取組について

『「あたまの力」の育成』について、『「全国学力・学習状況調査」における正答率 40%以下の児童生徒の割合』は、一部を除いて 2021 現状値よりも増加している。また「国語、算数、数学の勉強が好きだと思っている児童生徒の割合」も 2021 現状値よりも低下している。「全国学力・学習状況調査」は子どもたちの現状を把握するものであり、決して優劣を決めるものではない。現状の課題点を探り出し、適切な改善方策を導くための基礎資料である。なので結果に一喜一憂することなく、学校現場と教育行政とが連携しながら、今後の方策を見出して欲しい。

『「あたまの力」の育成』『「こころの力」の育成』および『「あたま・こころ・からだの 3 つの力を支える基礎力」の育成』に横断するものとして、読書活動に一定の課題があるように見受けられる。もちろん、現状においても様々な取組が講じられているところではあるが、より充実したものとなるような改善が行われることを願う。

『「からだの力」の育成』について、「朝食を毎日食べる児童生徒の割合」が 2021 現状値から低下していた。朝食を食べることは、学習をはじめ学校での活動の原動力となるし、体力向上の要となる健康的な生活の基盤づくりには欠かせない。これは学校だけで取り組めるものではないので、家庭との連携・協働を図りながら、改善を期して欲しい。

## (3) 今後の教育施策の取組について

2022 年度は、新しい学習指導要領が全面実施となって 2 年目となる。学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」を基盤として、「カリキュラム・マネジメント」と「主体的・対話的で深い学び」という教育内容と教育方法の両輪の改革をもって、子どもたちの生きる力の育成を目指す。今後はこうした学習指導要領の理念を踏まえ、そのうえで、豊岡市の教育がこれまでに大切にしてきたこと、これから大切にすることの質を高めるべく、施策を展開することが望まれる。そのためには、「とよおか教育プラン」のもつ長期的な展望と、各年度の「実践計画」の短期的で具体的な方策とを照らし合わせることも、何よりも求められる。

2023 年 5 月 8 日以降、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行した。これ

によりこれまで制限されてきた教育活動にも大きな変化が起きうることが考えられる。私たちが「コロナ禍」で学んだこと、すなわち経験から獲得した知恵というものがある。今後は、これまでの伝統的な教育観（不易）と新しい教育観（流行）とをすり合わせ、これからの時代を生きる子どもたちに相応しい教育を、豊岡という「地元の文脈」に即した形で構想していただくことを願う。

2023年度

**教育委員会の点検・評価報告書**

(2022年度事業分)

発行 2023年6月

編集 豊岡市教育委員会 教育総務課

〒668-8666

兵庫県豊岡市中央町2番4号

豊岡市役所本庁舎6階

TEL 0796-23-1117

FAX 0796-24-4669